

I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

II 実施状況

- 1 実施期日 平成30年4月17日(火)
- 2 調査内容 教科に関する調査 国語、算数・数学
理科(前回平成27年度、今回3回目の実施)
質問紙調査 児童生徒、学校
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
65校	3,457人	26校1分校	3,444人

※ 4月17日現在、浜黒崎小学校松風分校に6年生の在籍はなし。

III 教科に関する結果の概況

1 教科区分別平均正答率(%)

	小学校6年					中学校3年				
	国語	国語	算数	算数	理科	国語	国語	数学	数学	理科
	A	B	A	B		A	B	A	B	
富山市	75	60	68	57	65	78	63	71	51	70
富山県	74	58	66	55	64	78	63	70	51	70
全国	71	55	64	52	60	76	61	66	47	66

(A:主として「知識」に関する問題、B:主として「活用」に関する問題)

2 結果の概要

- ・平成19年度の本調査実施以降、教科区分別の本市の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。
- ・小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語Aは4ポイント、国語Bは5ポイント、算数Aは4ポイント、算数Bは5ポイント、理科は5ポイント上回っている。
- ・中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語Aは2ポイント、国語Bは2ポイント、数学Aは5ポイント、数学Bは4ポイント、理科は4ポイント上回っている。
- ・平均正答率を県と比較すると、小学校ではすべての教科で上回り、中学校では、国語A、国語B、数学B、理科が同等で、数学Aが上回っている。

3 小学校6年生 教科区分別平均正答率

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

【国語A：主として知識】

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合がありますため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	75	74	71

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	◎ 94.0	93.0	90.8
	書くこと	1	◎ 76.4	75.1	73.8
	読むこと	2	◎ 76.5	75.0	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	◎ 72.3	71.9	67.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—		
	話す・聞く能力	1	◎ 94.0	93.0	90.8
	書く能力	1	◎ 76.4	75.1	73.8
	読む能力	2	◎ 76.5	75.0	74.0
	言語についての知識・理解・技能	8	◎ 72.3	71.9	67.0
問題形式	選択式	11	◎ 77.7	77.1	73.9
	短答式	1	◎ 47.1	45.3	35.5
	記述式	0	—		

【国語B：主として活用】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	60	58	55

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◎ 70.3	67.9	64.6
	書くこと	5	◎ 51.7	49.9	45.6
	読むこと	2	◎ 55.2	54.3	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	—		
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	◎ 40.6	39.3	33.2
	話す・聞く能力	3	◎ 70.3	67.9	64.6
	書く能力	5	◎ 51.7	49.9	45.6
	読む能力	2	◎ 55.2	54.3	50.8
	言語についての知識・理解・技能	0	—		
問題形式	選択式	5	◎ 71.2	68.9	67.6
	短答式	0	—		
	記述式	3	◎ 40.6	39.3	33.2

【小学校6年生】

【算数A：主として知識】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	68	66	64

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	数と計算	5	◎ 67.1	65.0	62.3
	量と測定	4	◎ 75.1	74.9	72.7
	図形	3	◎ 59.8	57.1	56.9
	数量関係	5	◎ 65.3	62.6	60.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—		
	数学的な考え方	0	—		
	数量や図形についての技能	5	◎ 69.0	67.3	63.0
	数量や図形についての知識・理解	9	◎ 66.8	65.0	63.8
問題形式	選択式	10	◎ 65.4	63.7	61.8
	短答式	4	◎ 73.0	71.2	67.8
	記述式	0	—		

【算数B：主として活用】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	57	55	52

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	数と計算	6	◎ 63.4	61.5	58.4
	量と測定	4	◎ 58.2	56.2	52.4
	図形	2	◎ 65.6	63.6	59.9
	数量関係	5	◎ 50.5	48.8	45.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—		
	数学的な考え方	9	◎ 54.5	52.7	49.2
	数量や図形についての技能	0	—		
	数量や図形についての知識・理解	1	◎ 77.2	75.3	71.7
問題形式	選択式	3	◎ 58.0	56.4	54.0
	短答式	2	◎ 71.8	69.7	66.6
	記述式	5	◎ 50.0	48.1	43.9

【小学校6年生】

【理科】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	65	64	60

分類	区分		対象設問数(問)	平均正答率(%)		
				富山市	富山県	全国
枠組み	主として「知識」に関する問題		3	◎ 83.0	82.0	78.0
	主として「活用」に関する問題		13	◎ 61.0	60.0	56.2
学習指導要領の区分等	A区分	物質	4	◎ 63.3	62.7	59.8
		エネルギー	4	◎ 61.5	58.7	53.1
	B区分	生命	4	◎ 76.2	75.6	73.6
		地球	6	◎ 54.9	52.5	49.5
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		1	◎ 83.4	83.1	82.1
	科学的な思考・表現		12	◎ 59.7	57.7	54.1
	観察・実験の技能		1	○ 72.5	72.7	71.1
	自然事象についての知識・理解		2	◎ 87.6	86.6	81.5
問題形式	選択式		13	◎ 69.1	67.5	63.8
	短答式		1	◎ 84.0	83.7	79.4
	記述式		2	◎ 32.2	30.6	28.0

4 中学校3年生 教科区分別平均正答率

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

〔国語A：主として知識〕

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合がありますため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	78	78	76

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◎ 76.2	75.9	75.2
	書くこと	4	◎ 77.2	76.7	73.9
	読むこと	4	◎ 78.7	78.4	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	○ 78.1	78.2	76.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—		
	話す・聞く能力	3	◎ 76.2	75.9	75.2
	書く能力	4	◎ 77.2	76.7	73.9
	読む能力	4	◎ 78.7	78.4	76.7
	言語についての知識・理解・技能	21	○ 78.1	78.2	76.5
問題形式	選択式	21	◎ 78.4	78.2	76.8
	短答式	11	○ 76.7	77.0	74.7
	記述式	0	—		

〔国語B：主として活用〕

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	63	63	61

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◎ 77.6	77.4	76.6
	書くこと	2	◎ 32.6	32.3	31.3
	読むこと	6	◎ 55.5	55.1	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	◎ 51.0	50.4	49.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	◎ 51.5	51.5	50.3
	話す・聞く能力	3	◎ 77.6	77.4	76.6
	書く能力	2	◎ 32.6	32.3	31.3
	読む能力	6	◎ 55.5	55.1	53.5
	言語についての知識・理解・技能	1	◎ 51.0	50.4	49.2
問題形式	選択式	6	◎ 68.5	68.1	66.7
	短答式	0	—		
	記述式	3	◎ 51.5	51.5	50.3

【中学校3年生】

【数学A：主として知識】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	71	70	66

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	数と式	12	○ 77.4	77.7	71.1
	図形	12	◎ 72.8	72.2	69.1
	関数	8	◎ 59.8	59.2	55.5
	資料の活用	4	◎ 65.5	65.5	63.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—		
	数学的な見方や考え方	0	—		
	数学的な技能	14	◎ 75.9	75.9	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	22	◎ 67.3	66.9	63.3
問題形式	選択式	18	◎ 65.1	64.5	61.5
	短答式	18	○ 76.2	76.3	70.7
	記述式	0	—		

【数学B：主として活用】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	51	51	47

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	数と式	4	◎ 54.0	54.0	51.4
	図形	3	◎ 51.1	50.5	46.7
	関数	3	○ 56.7	57.1	52.8
	資料の活用	4	◎ 44.6	43.7	38.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—		
	数学的な見方や考え方	10	◎ 49.4	49.1	45.1
	数学的な技能	4	◎ 56.0	55.6	51.3
	数量や図形などについての知識・理解	0	—		
問題形式	選択式	2	◎ 65.6	64.9	61.5
	短答式	7	◎ 60.8	60.6	56.2
	記述式	5	◎ 32.2	31.9	27.9

【中学校3年生】

【理科】

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	70	70	66

分類	区分	対象設問数(同)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
枠組み	主として「知識」に関する問題	11	◎ 73.0	73.0	67.9
	主として「活用」に関する問題	16	◎ 67.0	67.0	64.9
学習指導要領の分野等	第1分野	物理的領域	○ 77.8	77.9	74.4
		化学的領域	◎ 70.3	69.7	65.0
	第2分野	生物的領域	○ 77.3	77.6	72.5
		地学的領域	◎ 58.0	57.9	57.8
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	1	◎ 78.4	78.1	74.0
	科学的な思考・表現	16	◎ 67.4	67.3	64.9
	観察・実験の技能	4	◎ 71.6	71.3	67.0
	自然事象についての知識・理解	8	◎ 74.3	74.2	68.7
問題形式	選択式	17	◎ 73.2	73.0	70.9
	短答式	4	○ 78.5	78.7	70.2
	記述式	6	○ 53.7	53.8	50.1

小学校国語

<p>結果の概要</p>	<p>○ 全国と平均正答率を比較すると、国語Aは4ポイント、国語Bは5ポイント上回っている。また、国語A・Bとも、全ての領域等・観点において、平均正答率が全国を上回っており、無解答率は下回っている。</p> <p>● 国語Bでは、領域「書くこと」のうち、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに関して特に課題が見られる。また、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく設問においては、県平均を0.3ポイント下回っている。</p>
<p>A：主として 「知識」</p>	<p>○ 領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率が、全国よりも5.3ポイントと、特に高い。問題形式では、選択式は3.8ポイント、短述式は11.6ポイント全国平均正答率を上回っている。</p> <p>● 文中で使う漢字を正しく選択する設問では、「製」が0.4ポイント、「設」が0.3ポイント、それぞれ正答率が県平均を下回っている。新出漢字だけでなく、既習の漢字の定着状況を把握し、日常的に活用する指導、定期的な補充学習を継続して行うことが大切である。 (設問8ア、イ)</p> <p>● 文中における主語と述語との関係等に注意して、文を正しく書くことに課題が見られる。主述が合っているか、理由を書くときは文末に「から」を用いているかなど、正しい文の書き方を日常的に指導していくことが必要である。自分自身で推敲したり、友達同士で読み合ったりする時間を適宜設けるとよい。(設問5)</p>
<p>B：主として 「活用」</p>	<p>○ 領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」の平均正答率は、全国と比べて、それぞれ5.7ポイント、6.1ポイント高い。話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題では、全国と比べて、正答率が9.4ポイント高い。 (設問1三)</p> <p>● 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題では、正答率が19.6%と低い。書く活動では、読み手に伝えたいことを明確にする、収集した情報の中から必要なものを取捨選択する、選択した情報を適切に引用するといった指導をすることが大切である。また、図表やグラフを読み取ったことを基に、自分の意見をまとめて書く場面を設定するなど、情報活用力の育成を意識した学習過程の工夫が必要である。 (設問2二)</p>

【条件】

- 「読み手と書き手」と「話し手と聞き手」の両方から分かつたこと。
- 「読み手と書き手」と「話し手と聞き手」の両方から分かつたこと。
- 書き出しの語句に「かみかみあえ」の語句を用いて書くこと。

書き出しの語句に「かみかみあえ」の語句を用いて書くこと。

【読み手と書き手】

かみかみあえ

は

【話し手と聞き手】

かみかみあえ

は

【読み手と書き手】

かみかみあえ

は

【話し手と聞き手】

かみかみあえ

は

(●B 設問2二 正答率19.6% 無解答率2.7%)

小学校算数

<p>結果の概要</p>	<p>○ 全国と平均正答率を比較すると、算数Aは4ポイント、算数Bは5ポイント高い。また、全ての領域等・観点で、平均正答率が全国を上回っている。</p> <p>● 算数Aでは、小数の除法の意味や円周率の意味についての理解に関する問題で、平均正答率が50%を下回った。求め方を身につけるだけでなく、数量関係を図や数直線などで可視化して理解を深めることが大切である。また、算数Bでは、日常生活の事象をグラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりする問題で、平均正答率が30%を下回った。目的に応じて必要な資料を収集し、表やグラフなどに整理し直して自らの結論をまとめるなど、問題解決の過程を意識した単元を構想することが重要である。</p>
<p>A:主として「知識」</p>	<p>○ 「数量関係」領域の設問別平均正答率は、全国と比較すると5.2ポイント高く、他の領域よりも全国との差が大きかった。特に、示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ問題では、全国と比較すると7.6ポイント高く、示された内容から、時間の経過に伴う気温の変化と同時刻の気温の違いを読み取る技能が身につけている。</p> <p>● 「数と計算」領域の$12 \div 0.8$の式で求められる内容を複数選ぶ問題では、正答率が42.5%であり、算数Aの中で最も正答率が低かった。1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることについて、単位量当たりの大きさや小数のわり算など機会をとらえて理解を深めることが大切である。 (問題2)</p> <p>● 「図形」領域では、平均正答率が59.8%であり、他の領域に比べて低い。特に、円周率を求める式を選ぶ問題では、正答率が44.0%であり、39.1%が「円周の長さ×直径」を選んでいった。実際に多様な大きさの円の円周と直径を測って円周率を求めるなど体験を通して理解することが重要となる。 (問題7(1))</p>
<p>B:主として「活用」</p>	<p>○ 記述式問題での正答率が全国よりも6.1ポイント高く、他の問題形式の中で最も全国との差が大きかった。ペア学習など学習形態を工夫しながら、説明することを取り入れた学習の成果が表れてきていると考えられる。</p> <p>● メモとグラフを関連づけ、総数や変化など視点の違いを解釈し説明する問題や、棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを判断する問題の正答率がそれぞれ28.5%、27.4%と低かった。グラフを多様な視点で読み取ったり、目的に応じてグラフを選択して表したりすることで、思考力や表現力を高めることが必要である。 (問題3(1)(2))</p> <p>● 横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるため必要な折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を説明する問題での正答率は50.6%であり、全国よりも7.4ポイント高かった。しかし、無解答率が13.3%であり、解答類型以外の解答が27.7%であった。記述による説明の難しさに加え、問題の解決に関係のある数量を自ら見だし、それらの数量の関係を解釈し活用する力に課題があることがうかがわれる。 (問題5(1))</p>

答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を、下の1から4までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

- 1mの重さが12kgの鉄の棒があります。この鉄の棒0.8mの重さは何kgですか。
- 0.8Lで水を12m³ぬることができるペンキがあります。このペンキ1Lでは、水を何m³ぬることができますか。
- 赤いテープの長さは12cmです。白いテープの長さは、赤いテープの長さの0.8倍です。白いテープの長さは何cmですか。
- 長さが12mのリボンを0.8mずつ切っています。0.8mのリボンは何本できますか。

さくらさんは、学校の黒板に輪かざりをつけようと思い、先まから折り紙をもらいました。折り紙の枚数は100枚でした。1枚の折り紙からは、折り紙の輪を5個作ることができます。折り紙の輪を30個つなげて、輪かざりを1本作ります。

さくらさんは、図1のように、横の長さが7mの黒板を、50cmずつに区切って、上の部分に輪かざりをつけようとして対面しています。

輪かざり1本の作り方

- ① 折り紙を同じにはばで5つに切ります。
- ② 切った折り紙のはし部分にのりをつけて、もう一方のはし部分と重ねてはりあわせると、折り紙の輪が5個できます。
- ③ 折り紙の輪を次のようにつなげていきます。
- ④ 折り紙の輪を30個つなげただものを、輪かざり1本とします。

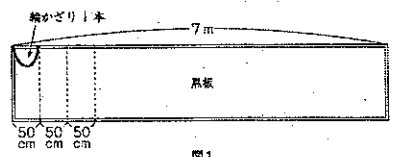


図1

(1) 横の長さが7mの黒板の、はしからはしまで輪かざりをつけるためには、折り紙の枚数が100枚あれば足ります。そうたさんは、そのわけを、次のように説明しようとしています。

【そうたさんの説明】
黒板の横の長さは7mなので700cmです。黒板のはしからはしまで輪かざりをつけるために必要な輪かざりの本数は、 $700 \div 50 = 14$ で、14本です。

【そうたさんの説明】に続くように、折り紙の枚数が100枚あれば足りるわけを、次や言葉を使って書きましょう。

(●A 問題2 正答率42.5%)

(●B 問題5(1) 正答率50.6% 無解答率13.3%)

小学校理科

<p>結果の概要</p>	<p>○ 全国と平均正答率を比較すると、4ポイント高い。また、全ての領域等・観点で、平均正答率が全国を上回っている。</p> <p>● 記述式の問題形式では、平均正答率が24.8%、39.6%と低い。普段から、科学的な言葉を正しく用い、根拠を明確にして説明するような言語活動を充実させることが大切である。</p>
<p>主として「知識」</p>	<p>○ B区分「地球」領域の問題は、平均正答率が91.1%と高い。流れる水の3つのはたらきを区別し、科学的な言葉と結びつけて正しく理解している。(問題2(1))</p> <p>● 観察・実験の技能を問う問題では、平均正答率が72.5%と他の2問と比較して低い傾向が見られる。県との比較では、正答率が0.2ポイント低く、無解答率が0.3ポイント高い。濾過の正しい操作を、習得していないことが考えられる。濾過等の実験を行う際、方法や留意点を単に覚えるだけではなく、留意が必要な理由について考えるなど、操作活動を通しての実感を伴った理解が求められる。(問題4(1))</p>
<p>主として「活用」</p>	<p>○ 主として「活用」を問う問題は、ほぼ全てが観点「科学的な思考・表現」であり、平均正答率は、全国を5.6ポイント上回っている。複数の実験結果を基に分析する問題の正答率が一番高く、90.6%である。問題意識をもって実験に臨むことが身につけており、何を調べるための実験かを理解していることが、結果の正しい分析につながったと考えられる。(問題4(2))</p> <p>● 平均正答率が24.8%と一番正答率の低かった問題では、実験結果を正しく表している文を選び、変化させた条件と結果の因果関係を明確にして、選んだ理由を記述する必要がある。実験結果を正しく選ぶところまでの平均正答率は、45.9%であるが、そのうちの半数近くが記述で誤答となっている。日ごろの指導において、「○○したから(原因)、○○となった(結果)」と因果関係を正しく記述する習慣をつけることが大切である。(問題2(3))</p>

(1) まるさんの気づきをもとに、正しく操作し直しているものはどれですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

1

ろうと
ろ紙

海水がろうとを満たすまで注ぐようにする。

2

ろうと
ろ紙

折ったろ紙の最も下の部分にガラス棒を当てて注ぐようにする。

3

ろ紙
ろうと

折ったときにろうとよりも大きくなるろ紙を使って、折ったろ紙を満たすまで海水を注ぐようにする。

4

ろうと
ろ紙

折ったろ紙の高さをこえないように海水を注ぐようにする。

(● 問題4(1) 正答率72.5% 無解答率0.7%)

水の量を変えた実験

○ 地面のけずられ方についてくわしく調べるために、みぞの曲がっているところの外側と内側に3本ずつ棒を立てる。

○ 1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようすを調べる。

実験結果	
1本のペットボトルの水を流したときの棒のようす	2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようす

(3) 上の実験の結果から、川を流れる水の量が増えると、川の曲がっているところの外側と内側の地面のけずられ方は、どのようになると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを実験結果の「水の量」と「棒のようす」がわかるようにして書きましょう。

- 1 外側も内側もけずられる。
- 2 外側も内側もけずられない。
- 3 外側だけがけずられる。
- 4 内側だけがけずられる。

(● 問題2(3) 正答率24.8% 無解答率0.7%)

<p>結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国と平均正答率を比較すると、国語Aは1.9ポイント、国語Bは1.8ポイント高く、全ての領域等・観点で、平均正答率が全国を上回っている。 ● 国語Bでは「書くこと」に関する問題の正答率が32.6%と低い。目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題が見られる。
<p>A：主として 「知識」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二つの意見の内容を一文で書き加える問題の平均正答率が全国より5.8ポイント高い。今後も、書いた文を互いに読み合い、伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わる文になっているか助言し合うなど、学習活動を工夫していきたい。(問題2二) ● 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、文脈に即して漢字を正しく書く問題で、正答率が全国を6.8ポイント上回っている漢字がある一方、無解答率が高い傾向がある。同音や形が似ているなど、間違えやすい漢字について意識させるようにすることが大切である。(問題8-2) ● 文脈に合う慣用句を選択する問題の正答率が29.4%と低い。学習や読書を通して出合った言葉を取り上げ、意味や語源を確かめる、似た意味や反対の意味の言葉を整理するなど、日常的に指導を続ける必要がある。(問題8三エ)
<p>B：主として 「活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ グラフから分かることについて、文章中で説明しているものとして適切なものを選択する問題の正答率が、全国より6.1ポイント高い。今後も、学校図書館やインターネットなどを利用して主体的に情報を探し、多様な情報を関連づけて読む学習活動を充実していきたい。(問題1一) ● 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題の正答率が14.3%と低い。目的に応じて文章の一部を読み取ることはできているが、論の展開をとらえて必要な内容を選択し、整理して書くことに課題がある。本や文章を読んで得た知識を他の人に向けて説明する場の設定等、学習活動の工夫が必要である。その際、複数の情報を正確に理解し、相手や目的に応じて取捨選択したり関係づけたりして、適切に表現することを意識させることが大切である。(問題1三)

三 次のアからキの文では、() の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それだけ一つ選びなさい。

7 立場の異なる両者の主張は① 確拠定数 2 終始一貫 3 先手必勝 4 共存共栄)として変わらず、最後まで結論が出なかった。

イ 魚の中には群れを作って泳ぐ① 習性 2 修正 3 集産 4 終産)をもつものがある。

ウ 先生が私たちに大切なことを① 申し上げた 2 申した 3 お言いました 4 おっしゃった。

エ 彼は① 水気 2 せき 3 紙 4 くう)を切ったように話し始めた。

では、「天竺無用」を「上下を先ださない」といふ意味で受け取る人が多いのは、どのような理由があるのでしょうか。その前提として、「無用」の意味を調べてみましょう。

『国語辞書』第7版新訂(国語学)第1巻(国語学)

おとす「無用」①役に立たないこと。いらないこと。「な無用」②してはならないこと。「天竺」①上下を、道にしてはならないこと(法、教等)②無事が無いこと。「の無用、入るべからず」

②の例にあるように「天竺無用」の「無用」は「してはならないこと」という意味です。

かつて、アノ本(『アノ本』)の注釈の中に「無用を無用」という言葉がありました。これは「無用を無用」という意味で、「天竺無用」も同じ使い方です。

このように「無用」の用法は、かつては注釈書などによく見られました。しかし、現在は「無用を無用」と「天竺無用」という言葉を用いた、もともと「天竺」に「してはならない」といふ意味で使われてきたように思われます。そのため、「無用」という言葉に「してはならない」という意味で使われていることが分かります。

また、「無用」の意味が「してはならないこと」であることが分かっていたとしても、「天竺してはならない」では、意味が通じません。「天竺無用」は、「天竺も注ださないこと」の注釈の中に「無用を無用」という言葉が使われていたように思われます。そのことは分かりませんが、本来の意味で使われるのは正しいでしょう。

『国語辞書』や『国語学』とは違って、「天竺」といふ言葉自体には「してはならない」といふような意味がありません。「天竺」に「してはならない」といふ意味で使われてきたように思われます。その結果、「天竺はならない」といふことになり、「天竺に無用はない」といふことになり、すいとせられます。

『天竺無用』という言葉は、いつも書物を取り扱っている人や、意味を知っている人にはよく使われるかも知れませんが、初めて見た場合には理解が難しい表現です。国語に関する書籍でも、国語の知識を深めたい人は、国語の知識を深めたいという目的があるならば、国語の知識を深めたいという結果です。

トランプを打つため、今後は分かりやすく言い換えたり、表紙を工夫したりするなどの配慮が必要かもしれません。

『国語辞書』(文庫版)「天竺無用」(天竺無用)という言葉を注釈してしまっている人がいる理由を教えてください。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本紙で消したり付箋に書き加えたりしてもかまいません。

<p>結果の概要</p>	<p>○ 全国と平均正答率を比較すると、数学Aは5ポイント、数学Bは4ポイント高い。また、全ての領域等・観点で、平均正答率が全国を上回っている。</p> <p>● 数学Bにおいて記述式の問題形式では、正答率が32.2%と低い。問題場面を数学的に解釈し、方法や手順、理由を説明する力に課題がある。</p>
<p>A：主として「知識」</p>	<p>○ 「数と式」領域の平均正答率が全国と比べて6.3ポイント高い。特に、文字を含む数量の大小関係を不等式に表す問題の平均正答率は全国より24.5ポイント上回っている。 (問題2(1))</p> <p>● 歩いた道のりと残りの道のりの関係について正しい記述を選ぶ一次関数の問題の正答率は35.4%と数学Aの中で最も低く、全国の正答率を1ポイント下回った。他の正しい記述を選ぶ問題(対頂角は等しいことの証明、相対度数の変化の様子等)の正答率も低かったことから、具体的な事象や場面について表、式、グラフ、図形を関連させて考える機会を多くする必要がありと考えられる。 (問題12、8、15(1))</p>
<p>B：主として「活用」</p>	<p>○ 「資料の活用」領域の平均正答率が全国と比べて6.6ポイント高い。特に、与えられた情報から、事象の起こりやすさの傾向をとらえる問題の正答率は、全国の平均正答率を8.5ポイント上回っている。 (設問1)</p> <p>● 列車の運行の様子を示したグラフから、ある地点で2つの列車が通る時刻の間隔を求める方法を説明する問題では、正答率が14.8%と低く、無解答率も27.3%に上った。また、バスツアーを利用した計画を立てる場面で、示された計算から分かることを選び、その理由を説明する問題では、正答率が11.0%にとどまった。必要な情報を適切に選択し単純化してその特徴をとらえ、問題解決の方法や事柄が成り立つ理由を数学的に表現する力を高めるために、情報の分類整理の仕方を学ぶ学習を丁寧に行うとともに、問題解決の過程を振り返る活動を充実させることが大切である。 (設問3(3)、設問5(2))</p>

(2) 拓真さんは、アンケートの結果1の上位4曲を連す順番について、下のような放送計画を考えました。

放送計画

その日に流す曲を、アンケートの結果1の上位4曲の中からくじ引きで決める。くじ引きは1日1回ずつ行い、4日間で4曲を流す。

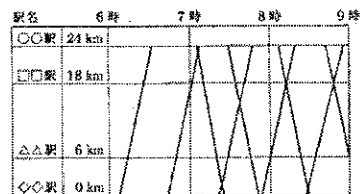
くじ引きの方法

- ① A、B、C、Dが1ずつ書かれた4枚のくじを用意する。
- ② 1日目は、その4枚のくじの中から1枚を引く。ただし、引いたくじは戻さないものとする。
- ③ 2日目以降は、残ったくじの中から1枚を引く。ただし、引いたくじは戻さないものとする。



この放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求めなさい。ただし、どのくじを引くことも同様に確からしいものとします。

③ 太一さんは、自分の地域を走る列車の写真を撮影し、紹介しようと考えています。そこで、ダイヤグラムを参考にして、撮影計画を立てることにしました。ダイヤグラムとは、下のように、横軸を時刻、縦軸を走る駅からの道のりとし、駅と駅の間で列車の運行の様子を直線で表したものです。

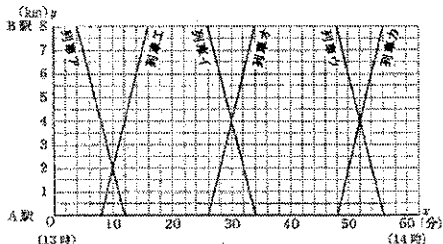


(3) 太一さんは、A駅からの道のりが6 kmの地点にある鉄橋を走る列車Aと列車工の写真を撮りたいと考えています。



このとき、A駅からの道のりが6 kmの地点において、列車Aが通ってから列車工が通るまでにおよそ何分かかるかは、前ページの太一さんが作ったグラフから求めることができます。その方法を説明しなさい。ただし、実際に時間を求める必要はありません。

太一さんが作ったグラフ



(○B 設問1(2) 正答率52.4%無解答率5.2%)

(●B 設問3(3) 正答率14.8%無解答率27.3%)

中学校理科

<p>結果の概要</p>	<p>○ 全国と平均正答率を比較すると、4ポイント上回っている。また、27問中24問で全国平均を上回っている。 ● 知識を活用して、事象の要因を推論する問題の正答率が低い。また、地学的領域の問題、記述式の問題の正答率がやや低い。</p>
<p>主として「知識」</p>	<p>○ 平均正答率は全国と比べ5.1ポイント上回り、概ね、基礎的・基本的な知識の定着が見られる。 ● 水溶液の濃度を求める問題においては、正答率が50.7%と低く、溶液の質量に対する溶質の質量の割合を表す技能が定着していない傾向が見られる。「溶質」「溶媒」「溶液」の関係性を正しくとらえる必要がある。(設問2(2))</p>
<p>主として「活用」</p>	<p>○ 事象の変化を原子や分子のモデル図で説明する問題は、全国平均を12.9ポイント上回っている。化学変化をしても「原子の種類と数は変化しない」という知識を生かし、実際の事象について原子や分子のモデル図で表す力が身につけている。(設問4(3)) ● 台風の進路を決める条件を指摘する問題の正答率が46.7%と低い。太平洋高気圧が台風の進路にかかわるという知識を活用して、コンピュータによるシミュレーション結果を分析する力が求められる。日々の授業の中で、自然事象についての要因果関係を理解し、要因が変わった場合に結果がどのように変化するかを考え、検証していくことが大切である。(設問3(3)) ● 蒸散と湿度に関する知識・技能を活用する問題の正答率が、22.4%と低い。水がいろいろなものに含まれ蒸発しているという知識と結びつけながら、湿度が変化する要因について推論できることが求められる。(設問9(2))</p>

3%の食塩水をつくる場面

A 水97gに、食塩30gを溶かしました。
B 水100gに、食塩30gを溶かしました。

AとBとでは、食塩水の質量パーセント濃度が異なりますね。

(2) 食塩水の質量パーセント濃度が低いものを、上のA、Bの中から1つ選びなさい。また、食塩水の質量パーセント濃度が3.0%のものを、上のA、Bの中から1つ選びなさい。

(設問2(2) 正答率50.7% 無解答率1.3%)

台風の進路のシミュレーション

【問題】 台風の進路は、【覚えることができる条件】のどれに関係しているのだろうか。

【覚えることができる条件】

- 日本付近の偏西風の強弱
- 太平洋高気圧(小笠原気団)の範囲
- 台風が発生する地点

【結果】 台風が発生する地点は「赤い点」、進路は「→」で表示される。

【考察】 AからDの結果から、台風の進路は、偏西風の強弱、太平洋高気圧の範囲、台風が発生する地点に関係しているといえる。

9 健一さんは、乾燥した部屋に鉢植えの植物を置くと湿度が上がって、インフルエンザの予防に効果があると知り、科学的に探究して実験ノートにまとめました。(1)と(2)の各問いに答えなさい。

実験ノートの一部

2月11日(日) 天気 曇り 気温 22℃

【問題】 密閉した透明な容器の中に鉢植えの植物を置くと、湿度は上がるのだろうか。

【実験】 容器の中の温度と湿度を測定する器具

【結果】 AとBの容器の中の湿度は22℃で変わらなかった。

時間(時間)	0	1	2	3	4	
湿度(%)	A 植物あり	37	67	87	88	88
	B 植物なし	38	39	39	38	38

【考察】 実験の結果から、鉢植えの植物を入れた容器の中の湿度は上がるといえる。

【新たな疑問】 水蒸気が植物から出るだけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

(2) 健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。

(設問9(2) 正答率22.4% 無解答率16.6%)

(3) 秋葉さんは、【考察】の下線部を見直しました。次の に入る適切な言葉を書きなさい。

AからDの結果から、台風の進路は、 に関係しているといえる。

(設問3(3) 正答率46.7% 無解答率5.2%)

(2) 児童生徒質問紙調査の結果から

肯定的な回答:「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの

自尊感情等 全国比:平成30年度本市と全国を比較したもの H29比:本市平成30年度と平成29年度を比較したもの ○は今年度より調査項目になった質問

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H29比	考察
1 自分には、よいところがあると思う	小	84.7%	+0.7	+5.5	1、3 「自分には、よいところがあると思う」「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。今後も、学習や行事等に取り組む際には、子ども自身が自らの目標等を考えるようにし、 <u>子どもが「頑張った」「見てほしかった」点にふれて、教師が評価したり、認めたりすることで、児童生徒の自尊感情や自己有用感を高めていくことが必要である。</u>
	中	79.7%	+0.9	+5.0	
2 将来の夢や目標をもっている	小	83.2%	-1.9	-1.6	
	中	68.2%	-4.2	+0.8	
3 人の役に立つ人間になりたい	小	95.2%	±0	+2.4	
	中	95.1%	+0.2	+2.4	

規範意識

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H29比	考察
4 学校のきまり(規則)を守っている	小	89.0%	-0.5	-3.0	5 「いじめをいけないことだと思っている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。今後も家庭や学校での指導を継続し、 <u>いじめはいけないことであるという意識を高めるとともに、いじめをしない雰囲気、環境づくりに取り組むことが重要である。</u>
	中	94.5%	-0.6	±0	
5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	97.0%	+0.2	+1.7	
	中	96.2%	+0.7	+2.6	

授業での活動

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H29比	考察
6 授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	小	77.6%	+0.9	-2.0	7 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、話の組み立て等を工夫して発表していた」児童生徒の割合は全国よりやや低く、昨年度より低い。 <u>自らの考えをもつ過程を、「情報の収集」「整理・分析」「分かったことを表現する」に細分化し、それぞれの活動における学び方を、児童生徒に丁寧に指導することが必要である。</u>
	中	72.3%	-1.5	-5.0	
7 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、話の組み立て等を工夫して発表していた	小	58.2%	-2.8	-6.7	
	中	51.3%	-2.5	-7.5	
8 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	小	77.1%	-0.6	+7.4	
	中	74.3%	-2.0	+8.7	

家庭学習

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H29 比	考 察
◎ 9	予習・復習やテスト勉強等の自学自習において、教科書を使いながら学習をしている	小	84.5%	+14.6	-	9、10 「予習・復習やテスト勉強等の自学自習において、教科書を使いながら学習をしている」児童の割合は全国よりかなり高く、生徒の割合はほぼ同じである。また、「1時間以上勉強している」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや低い。学習したことを定着させる課題だけではなく、次時につなぐ課題や自主学習課題を与えるなど、主体的に取り組めるような工夫が必要である。また、家庭学習の手引きを保護者向けに配付するなど、 <u>家庭との連携を積極的に行うことが重要である。</u>
		中	72.6%	+1.3	-	
10	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上勉強をしている	小	67.4%	+1.2	+1.0	
		中	66.3%	-4.3	+1.0	
11	普段（月～金曜日）、家や図書館で30分以上読書をしている	小	45.8%	+4.7	+6.9	
		中	32.6%	+1.7	+1.9	

家庭での生活

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H29 比	考 察
12	朝食を毎日食べている	小	96.5%	+2.0	-0.2	12 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「家の人と学校での出来事について話をしている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。 <u>今後も継続して、家庭との連携を行い、規則正しい生活習慣の確立、維持に向けて、取り組んでいくことが大切である。</u>
		中	92.7%	+0.8	-1.5	
13	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	小	76.0%	-1.0	-3.3	
		中	75.5%	+1.3	-1.0	
14	家の人と学校での出来事について話をしている	小	79.2%	-1.3	+1.2	
		中	76.1%	+0.1	+1.0	

地域や社会に対する興味・関心

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H29 比	考 察
15	今住んでいる地域の行事に参加している	小	80.9%	+18.2	+1.2	15、16 「地域の行事に参加している」児童の割合は全国よりかなり高く、生徒の割合も高い。また「地域や社会で起こっている問題等に関心がある」児童の割合は高く、生徒の割合はやや高い。このことから、地域と一体になった児童生徒の育成が図られていることが分かる。 <u>今後も地域や社会に目が向くように働きかけていくことが大切である。</u>
		中	54.4%	+8.8	+4.4	
16	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	小	69.6%	+5.8	-1.5	
		中	62.8%	+3.5	-1.4	
17	新聞を週に1回以上読んでいる。	小	24.8%	+4.9	-1.7	
		中	19.5%	+5.6	+0.3	
18	テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよくまたは時々見る。	小	88.2%	+2.0	+1.7	
		中	86.6%	±0	-0.5	

(3) 学校質問紙調査の結果から

肯定的な回答：「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」、または「よく行った」「どちらかといえば、行った」をあわせたもの

ただし8は、「ほぼ毎日」「週1回以上」、9は、「週2回以上」「週1回以上」をあわせたもの

全国比：平成30年度本市と全国を比較したもの H29比：本市平成30年度と平成29年度を比較したもの ○は今年度より調査項目になった質問

児童・生徒

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H29比	考察
1 授業中の私語が少なく、落ち着いている	小	81.5%	-7.9	-0.1	2 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか」に肯定的に回答した割合は、全国と比べて小学校は低く、中学校はやや低い。市の指導方針にある「学習課題をつかむ」「自らの考えをもつ」などの指導を今後も継続して行い、児童生徒の学習意欲を引き出す課題や既習内容と関連づけて考えさせる課題等の提示の仕方を工夫していく必要がある。
	中	96.3%	+1.7	±0.0	
◎ 2 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	小	78.4%	-5.2	—	
	中	77.8%	-3.0	—	

教育課程

3 近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	46.1%	-17.0	+9.8	3 「小中連携」について、肯定的に回答した割合は、全国と比べて小学校はかなり低く、中学校は低い。しかし、昨年度と比べると小学校・中学校ともに、取り組みの成果が表れている。今後も各学校段階で育成すべき資質・能力を明らかにし、教育課程を検討していく必要がある。
	中	63.0%	-6.2	+29.7	

学習指導・生徒指導

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H29比	考察
4 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った	小	87.7%	-5.3	+4.4	5 「将来就きたい仕事や夢」について、肯定的に回答した割合は、全国と比べて小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。中学校は、「高校生や大学生、社会人から学ぶ機会」「14歳の挑戦」等が定着してきた結果が表れている。今後は、指導が効果的に行われたかを検証していく必要がある。小学校は、これまでも行ってきている働く人の姿や考え方にふれる機会の充実に努め、体験的な活動を通し、児童が働くこと、生きることを実感できるようにしていく必要がある。 8, 9 「ICTの活用」について教員が授業で活用している割合は、全国と比べて小学校はかなり高く、中学校はほぼ同じである。また、生徒が学習活動で活用している割合は、全国と比べて小学校はかなり高く、中学校は高い。情報機器の基本的な操作の習得やプログラミング体験等の学習活動を計画的に実施し、情報活用能力の育成を図っていく必要がある。
	中	92.6%	±0.0	±0.0	
5 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	小	70.7%	-12.6	+11.7	
	中	100.0%	+1.4	+3.7	
6 学習規律の維持を徹底していた	小	97.0%	-0.7	+3.0	
	中	100.0%	+1.7	±0.0	
7 各教科等で身につけたことを、様々な課題の解決に生かすことが出来るような機会を設けた	小	83.1%	-6.6	+8.9	
	中	85.2%	+1.6	+7.4	
◎ 8 教員が大型提示装置等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか	小	100.0%	+27.0	—	
	中	74.0%	-0.8	—	
◎ 9 生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行ったか	小	50.8%	+14.2	—	
	中	40.7%	+7.2	—	

10	学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取り組みを行った	小	98.5%	-0.5	+1.5	10 「よさや可能性を評価する取り組み」について、肯定的に回答した割合は、全国と比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じで、高い割合を示している。一方、児童生徒質問紙で、「先生がよいところを認めてくれている」に肯定的な回答をした児童は83.8%、生徒は80.7%で、児童生徒と教師との意識に開きがあることが分かる。 <u>児童生徒に自信をもたせる声かけを工夫していく必要がある。</u>
		中	100.0%	+2.1	±0.0	

調査結果の活用、特別支援教育

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H29比	考察
11	各種調査等の結果を併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画への反映を行っている	小	93.9%	-0.5	-0.5	12 「特別支援教育の理解と指導上の工夫」について、肯定的に回答した割合は、全国と比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。中学校の割合は昨年度と比較しても低く、生徒の特性に応じ、文字だけでなく視覚や聴覚に訴える教材の工夫等、丁寧できめ細かな指導を充実させていく必要がある。
		中	96.3%	+4.5	+7.4	
12	特別支援教育について理解し、授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った	小	93.8%	-0.6	+13.5	
		中	85.2%	-7.0	-3.7	

地域の人材・施設の活用

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H29比	考察
13	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った	小	66.2%	-17.2	+1.1	14 「地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定したか」に肯定的に回答した割合は、全国と比べて小学校・中学校ともに低い。地域の一員としての関心を高めたり、地域人材の柔軟な活用を積極的に行ったりしながら、キャリア教育等へつなげていく必要がある。
		中	77.7%	+7.6	+3.6	
14	授業や課外学習で地域のことを調べたり、地域の人とかかわったりする機会を設定した	小	80.0%	-6.2	-3.3	
		中	70.3%	-9.5	-11.2	

家庭学習、教員研修

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H29比	考察
15	家庭での学習方法を、具体例を挙げながら教えた	小	96.9%	+3.6	+10.5	16 「実践的な研修を行っているか」に肯定的に回答した割合は、全国と比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。指導力の継承や向上が課題となっており、中堅教員等を中心に授業実践研修等を積極的に行っていく必要がある。
		中	92.6%	+2.4	+7.4	
16	模擬授業や事例研究等、実践的な研修を行っている	小	95.4%	-1.3	+4.5	
		中	85.2%	-5.7	-7.4	

教職員の取組

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H29比	考察
◎ 17	学校として業務改善に取り組んでいる	小	100.0%	+2.6	—	17 「学校として業務改善に取り組んでいるか」に肯定的に回答した割合は、小学校・中学校ともに100%で、全国と比べてやや高い。働き方改革を意識し、全ての学校が業務改善に取り組んでいることが分かる。今後も、 <u>タイムマネジメント等の意識改革を図り、子どもと向き合う時間を確保できるよう業務改善に努める必要がある。</u>
		中	100.0%	+3.2	—	

V 今後の取り組み

1 調査結果の取り扱い

市教育委員会では、平成19年度から30年度までに実施された9回の「悉皆調査」と2回の「抽出調査」において、現状に即した教育に努めるため調査結果を公表してきた。

今年度においても、前年度の課題について、改善に取り組んできた結果を分析するとともに、今年度の調査結果より課題を明らかにし、今後の指導の改善を図る。

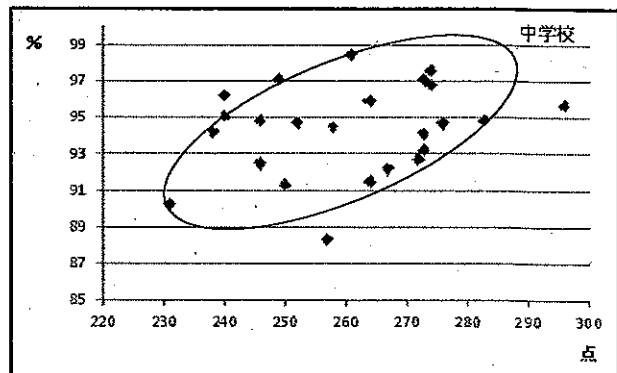
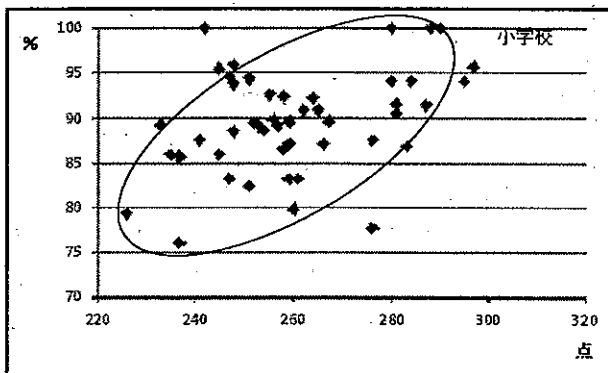
また、各学校では、本調査の結果を詳細に分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全教職員で共有することが大切である。分析するに当たり、数値のみにとらわれず、児童生徒の個々の学力状況や日ごろの学習の様子と学力調査等の分析結果を結びつけ、多面的、総合的に課題を明らかにして、日常の授業を改善していくものとする。

2 教科に関する調査と児童生徒質問紙調査、及び学校質問紙調査の関連から見てきたこと

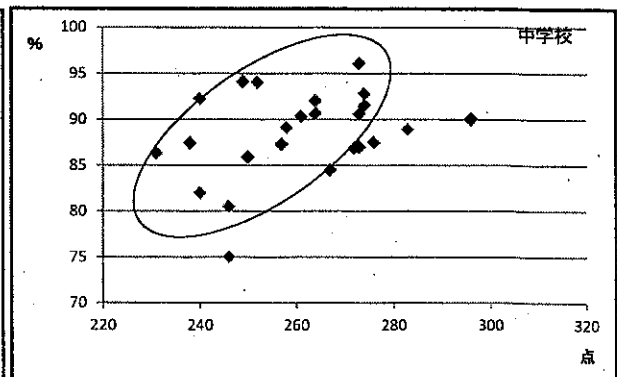
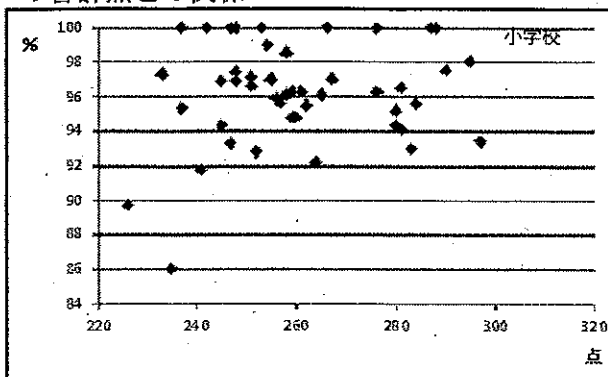
国語A・B、算数・数学A・Bの学校毎の平均正答率の合計と、その学校の児童生徒質問紙の回答状況についての相関関係を調べた。質問の内容によっては、算数・数学A・Bの学校毎の平均正答率の合計、理科の学校毎の平均正答率と、その学校の児童生徒質問紙の回答状況についての相関関係を調べた。また、平均正答率と相関関係があった児童生徒質問紙の項目に関連した学校質問紙の質問事項についても分析した。以下にそのデータを示す。

<学校ごとの平均正答率の合計と児童生徒質問紙の回答状況との相関関係>

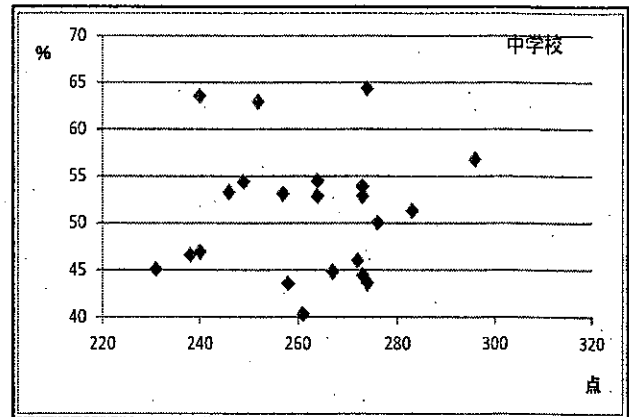
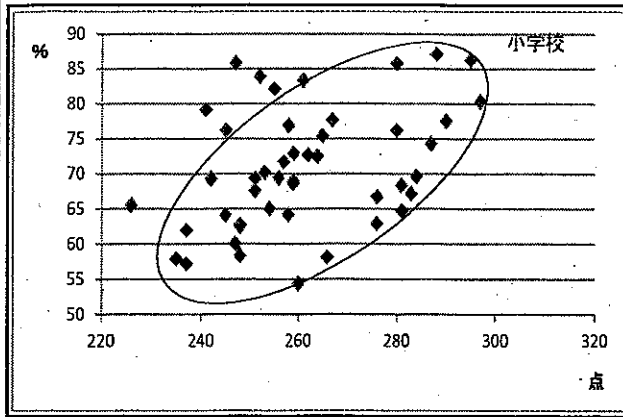
- 児童生徒質問紙4(4)「学校のきまりを守っている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



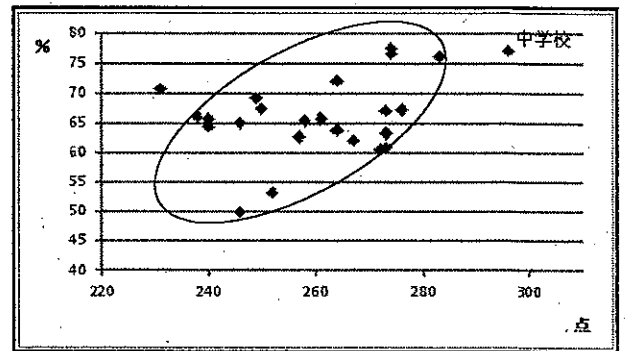
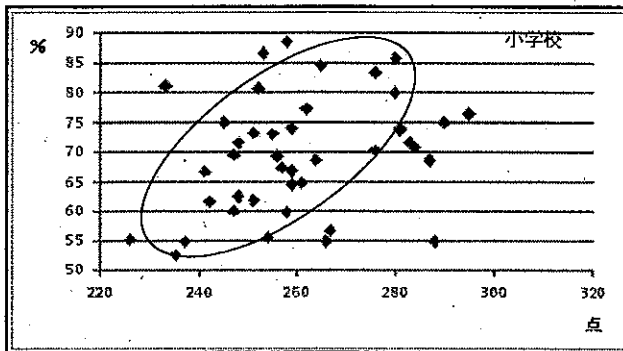
- 児童生徒質問紙11(11)「家で、学校の宿題をしている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



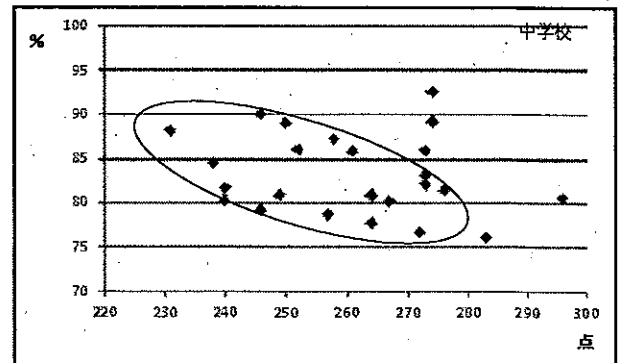
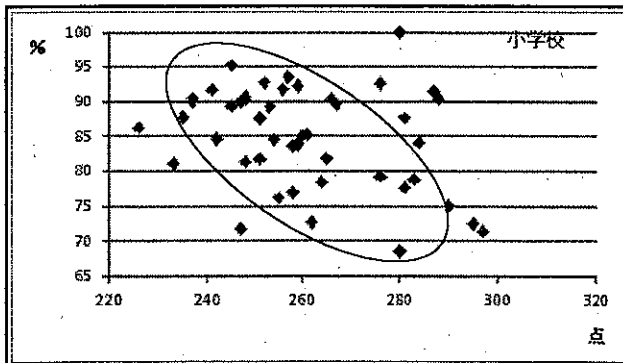
- 児童生徒質問紙12(12)「家で、予習・復習をしている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



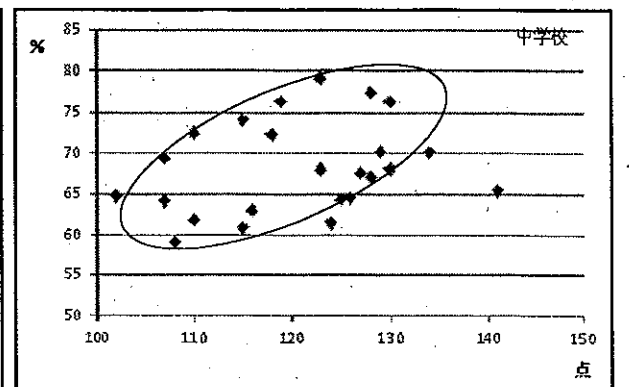
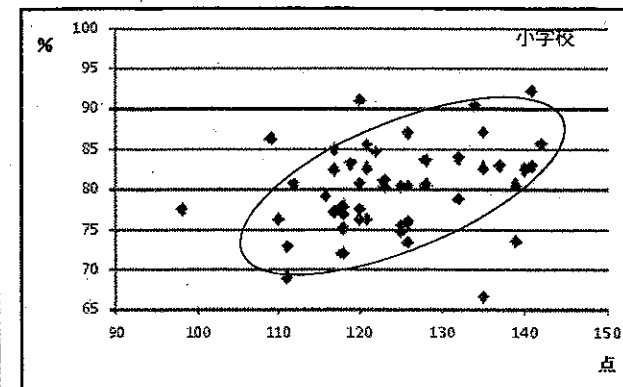
- 児童生徒質問紙14(14)「普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



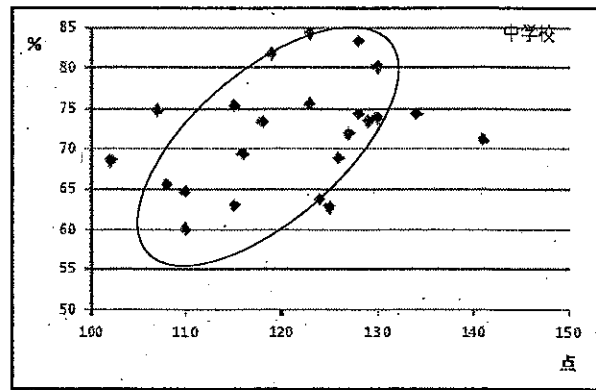
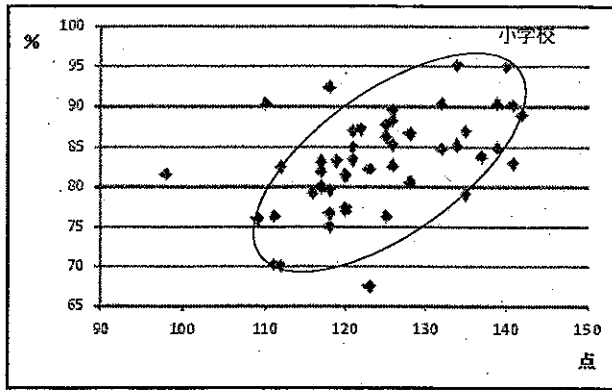
- 児童生徒質問紙16(16)「放課後に家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりして過ごすことが多い」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



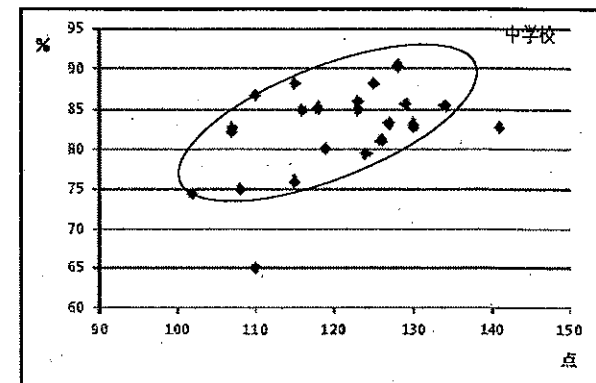
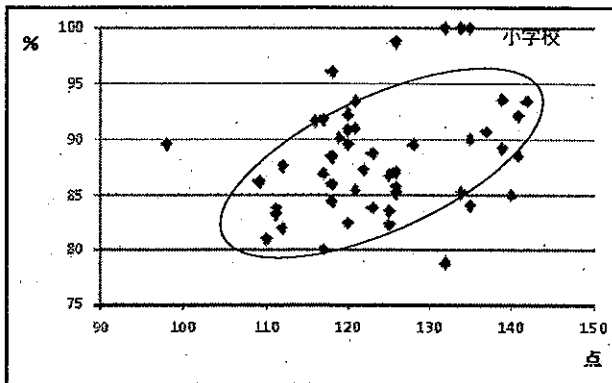
- 児童生徒質問紙34(34)「算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」と答えた児童生徒の割合と算数・数学の平均正答率の合計点との関係



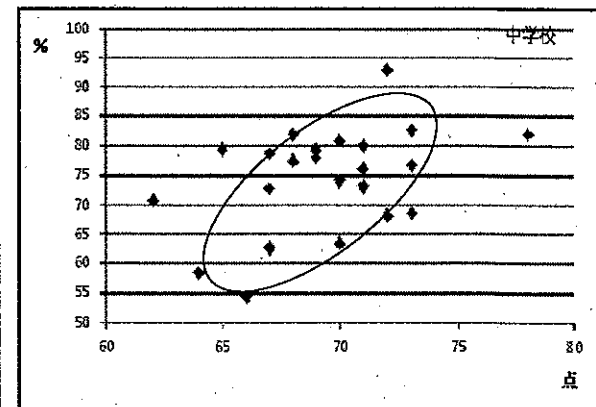
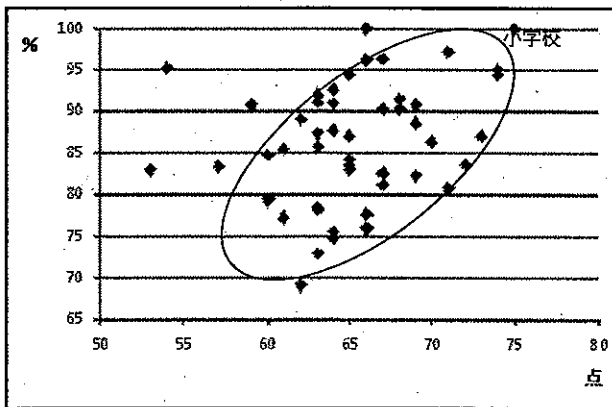
- 児童生徒質問紙35 (35) 「算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と答えた児童生徒の割合と算数・数学の平均正答率の合計点との関係



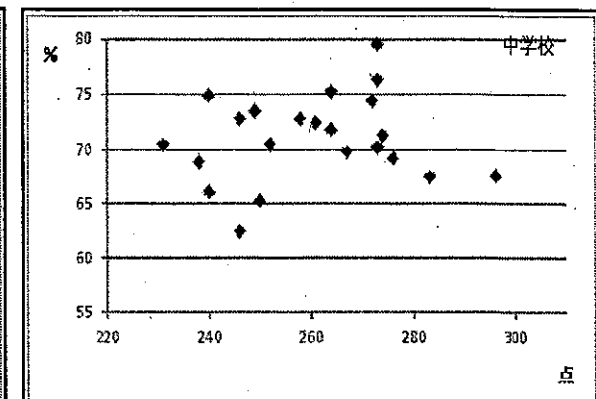
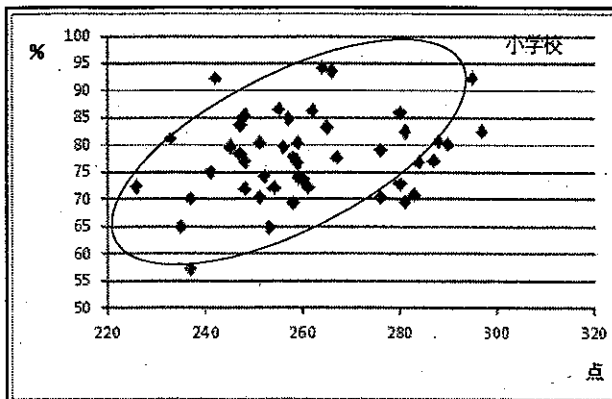
- 児童生徒質問紙36 (36) 「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と答えた児童生徒の割合と算数・数学の平均正答率の合計点との関係



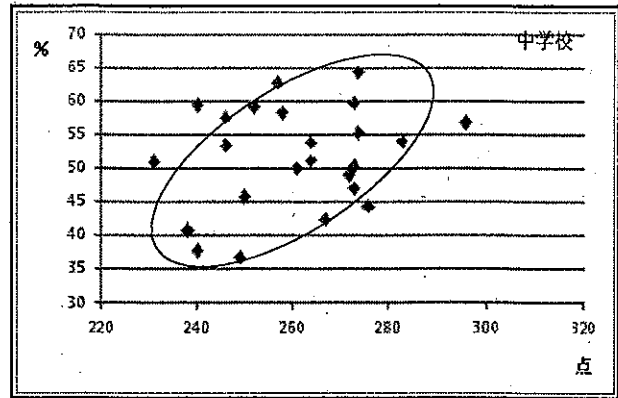
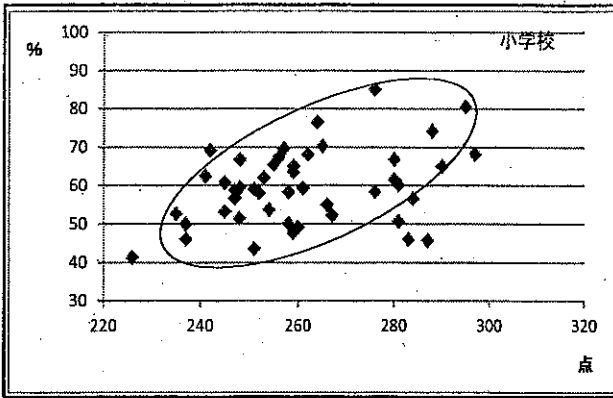
- 児童生徒質問紙49 (49) 「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」と答えた児童生徒の割合と理科の平均正答率の合計点との関係



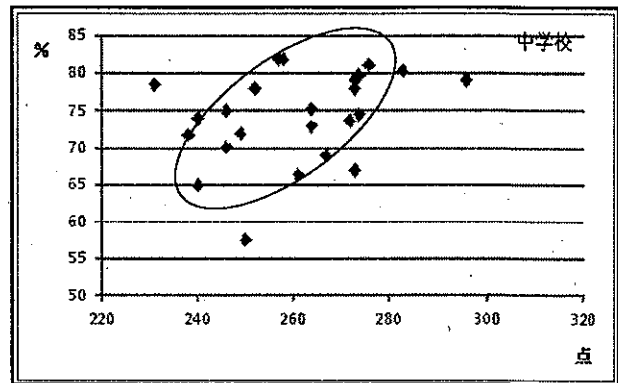
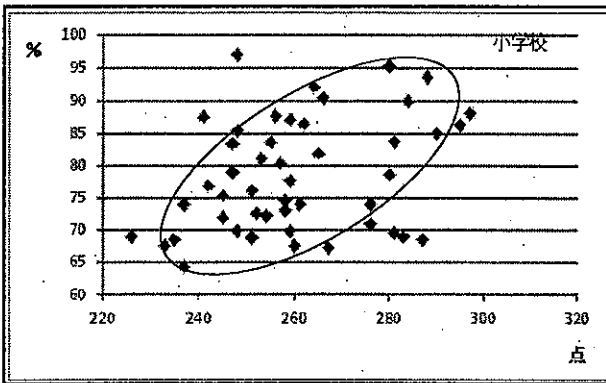
- 児童生徒質問紙55 (52) 「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問紙56 (53) 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問紙57 (54) 「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



<学校質問紙の各質問事項における、回答結果別の平均正答率の平均>

質問事項	回答			
	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
22(21) 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした	256【20】	256【61】	244【10】	
24(23) 児童生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた	258【46】	252【39】	240【6】	
26(25) 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	262【16】	255【60】	245【15】	
81(78) 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を通じて、学校全体として取り組んでいる	256【32】	255【52】	245【7】	
67(64) 算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与える	257【66】	249【24】	215【1】	
68(65) 算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題は除きます。)についての評価・指導	258【53】	250【36】	231【2】	
70(67) 長期中業中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与える	257【70】	248【20】	215【1】	
71(68) 児童生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業中は除きます。)についての評価・指導	258【53】	250【36】	226【2】	

※ 【 】内は、回答した学校数を表す。

<データの取り扱いについて>

- ※ 児童生徒質問紙の分析は、データの正確性を優先し、児童生徒数が20名以上の学校を対象とした。
- ※ 学校質問紙と平均正答率の関係については、各中学校の平均正答率を、小学校における平均正答率に換算して分析を行った。
- ※ ()内は、中学校の生徒質問紙、学校質問紙の質問番号を表している。
- ※ 相関係数が0.2以上の場合は、図に楕円の○を書き入れ、関連の特徴を表している。

この結果から、

「学校のきまりを守る」、「宿題や予習・復習をする」「平日1時間以上、家庭学習を行う」など、これまでも各校で指導していることが確実にできているかどうか、平均正答率に影響があると推察できる。

また、

- (1) 「問題解決的な学習」の過程において、「考えをもつ」場面、及びその「考えを交流する」場面での児童生徒の意識

<児童生徒質問紙34~36、49、55(52)~57(54)>

<学校質問紙22(21)、24(23)、26(25)、81(78)>

- (2) 家庭での過ごし方

<児童生徒質問紙11、12、14、16>

<学校質問紙63(60)、66(63)、67(64)、68(65)

70(67)、71(68)>

これらの取り組みが、平均正答率に影響があると推察できる。

これまで、富山市では、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、言語に関する指導の改善を進めてきた。今後もこれらの取り組みを継続しつつ、より児童生徒の学力を高めていくために、上記の課題について、授業等の改善を図っていく必要がある。

3 課題の改善に向けた指導のポイント

(1) 問題解決的な学習の充実を図る

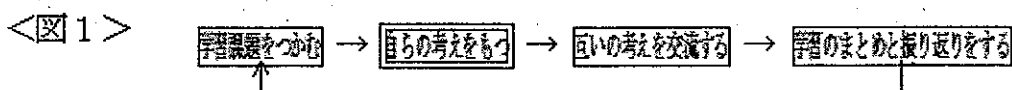
- ・「考えをもつ」場面の指導の充実（昨年度からの課題）
- ・「考えを交流する」場面の指導の充実（昨年度からの課題）

(2) 家庭学習に関する指導の充実を図る（昨年度からの課題）

(1) 問題解決的な学習の充実を図る

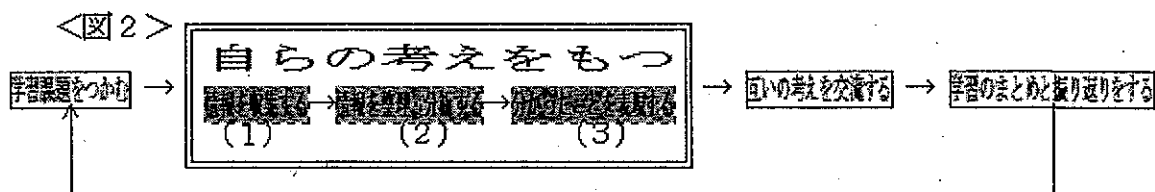
① 「考えをもつ」「考えを交流する」場面における指導のポイント

富山市教育委員会では、「富山市学校教育指導方針」や学校訪問研修会等を通して、課題を解決していく学習過程として、〈図1〉のような流れを示してきた。



平成28、29年度の全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、「情報を収集して、整理・分析すること」や「自分の考えを表現すること」と平均正答率との間に正の相関関係が見られており、それらの学習活動と知識・技能を活用する力に密接な関係があると推測される。

そこで〈図2〉のように、「自らの考えをもつ」過程を、「情報を収集する」「収集した情報を整理・分析する」「整理・分析したことを表現する」という活動に細分化し、「今はどの活動なのか」を教師や子どもが意識するとともに、教師はそれぞれの活動における学び方を、子どもに丁寧に指導していくことが必要である。



今年度の各校の平均正答率と児童生徒質問紙との相関関係を調べた結果、平成28、29年度同様、「考えをもつ」「考えを交流する」場面での指導の充実が、学力に影響することが改めて確認できた。

平均正答率と「考えをもつ」「考えを交流する」場面に関する児童生徒質問紙に相関関係が見られた内容は以下の質問である。

- 34 (34) 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- 35 (35) 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。

- 36 (36) 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- 55 (52) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- 56 (53) 授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。
- 57 (54) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- ※ () 内は、中学校の生徒質問紙における質問番号

また、平均正答率と「考えをもつ」「考えを交流する」場面に関する学校質問紙との間に、(平均正答率の)優位性が見られた内容は以下の質問である。

- 22 (21) 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした。
- 24 (23) 児童生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた。
- 26 (25) 各教科等で身につけたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。
- 81 (78) 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を通じて、学校全体として取り組んでいる。

市の指導方針には、「自らの考えをもつ」指導過程においては、「考えをノートに書く時間を設け、考えをホワイトボード等に可視化するとともに、聞き手を意識して考えを整理する時間を設ける。」と記載している。

児童生徒質問紙 36 (36) の「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。」と平均正答率には、正の相関関係が見られた。このことから、児童生徒が、学習課題にじっくり取り組む時間を確保し、課題に対して自分の考えを書くことが重要であると考えられる。この段階では、考えが曖昧であったり、主張したいことが明確になっていなかったりすることが多い。そこで、主体的・対話的で深い学びを実現する手段として、「考えを可視化する」ことが有効である。

「考えを可視化する」とは、児童生徒が考えたことを見えるようにすることで、具体的には、感想やメモ、友達からのコメントなどの文字情報、図や表、式、グラフ、画像、映像、動作、具体物などが考えられる。

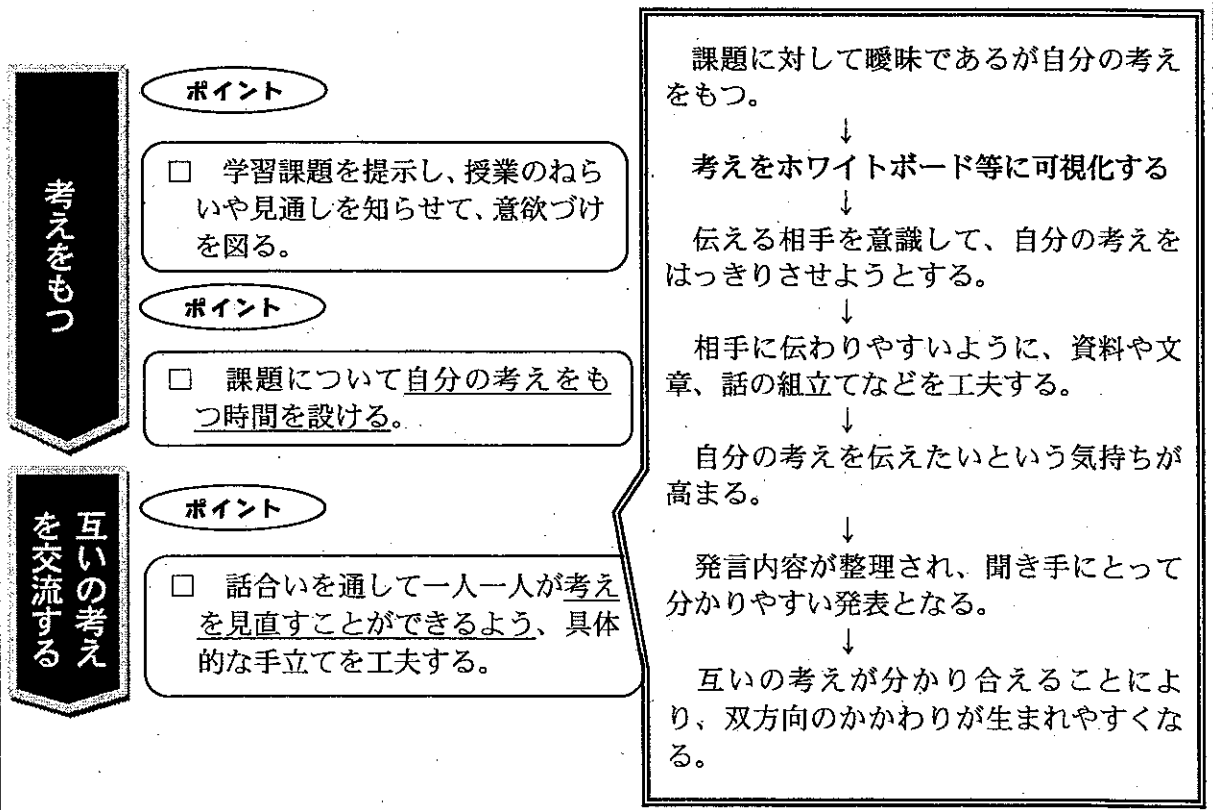
自分の考えを表現して具体化し、可視化することで、

- ・児童生徒が自分の考えをまとめることができる
 - ・児童生徒同士の考えの交流を活性化する
 - ・振り返りや評価がしやすくなる
- などの効果が期待できる。

児童生徒質問紙 56 (52) の「授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。」と平均正答率には、正の相関関係が見られた。このことから、考えを可視化することに加え、発表する機会が保障され、伝える相手を意識することで、自分の考えを整理し、話の組立てを考えていく過程で、自分の考えを次第に明確にしていく。また、自分の考えが明確になれば、伝えたいという気持ちが高まり、主体的に発表しようとする姿も期待できる。さらに、発言内容が端的で分かりやすいため意見交換が活性化し、新たな視点を自分の考えに加えたり、修正を図ったりするといった思考活動が行われ、話し手と聞き手の双方が、自分の考えを深めていくことができる。つまり、「考えをもつ」「考えを交流する」ことは、自分の考えを深めることにつながっていくと考えられる。

(平成30年度富山市学校教育指導方針 P11 より抜粋)

【問題解決的な学習における「自分の考え」が深まるプロセス】



平成30年度富山市学校教育指導方針には、「自らの考えをもつ」「互いの考えを交流する」際のポイントとして、次の内容を示しており、今後の指導の参考にしていきたい。

関連資料② 自らの考えをもつ

- 学習課題に対して、一人一人が自分の考えをもつように既習の学習内容や経験を想起できるようにしたり、スモールステップで問題解決の過程を示したりする。
- 考えをノートに書く時間を設け、考えをホワイトボード等に可視化するとともに、聞き手を意識して考えを整理する時間を設ける。



ポイント1 学習課題に取り組む時間を確保する

- 学習課題を理解する、分かること・分からないことを整理する、解決への見通しを立てるなど、子どもが学習課題に向き合う時間を大切に

ポイント2 伝えることを意識して考えを深めるよう促す

- 考えたことや意見をノートに書くことで、自分の考えを客観的にとらえることができる。さらに、考えを明確にするために、ノートに書いた考えを整理し直すなどの思考する活動を取り入れる。

関連資料③ 互いの考えを交流する

- 話す力を充実させるために、学習形態を意図的・計画的に工夫することで、学習効果を高める。
- 子ども同士が聞き合う目的は、互いの考えのよいところを認め、よりよい考えにしていくためであることを、子どもに十分理解させる。



ポイント1 場面に応じて、多様な学習形態を選択する

- 「一斉学習」「ペア・グループ学習」「個別学習」のメリットを踏まえながら、ねらいに応じて学習形態を工夫する。

ポイント2 「話す姿・聞く姿」の決まりをつくる

- 安心して話せる雰囲気づくりのために、学習規律の定着を図る。
- 発言している子どもと目をつないで聞くようとしている子どもを認める。

ポイント3 子どもの反応を見逃さない

- 話し手や聞き手となる子どもの表情や様子を把握するとともに、教師自身の立ち位置に気を配ったり、子どもの発言を繰り返さないようにしたりするなど、教師の言動に十分配慮する。



教師が「よい聞き手」になろう！

- 子どもが友達の話に耳を傾けるのは、友達の考え方や発言に関心があるからです。日ごろから教師がまず「聞き手」の手本となることが大切です。

② 「考えをもつ」「考えを交流する」場面における指導方法の具体例

平成28年度の分析では、課題について自分の考えをもった後、再度考えを整理する指導を行うことが大切であるとして、指導方法の具体例を次のように示している。

- ノートにまとめた自分の考えをホワイトボードやハイブリッドパソコン、画用紙やノート等に1枚でまとめ直す活動を取り入れる。その際に、考えの中心となること（主張点等）とその根拠（資料、図表、事柄等）を書くなどの一目で見分ける整理の仕方について指導する。
- 付箋を使って書いた考えを順序、関係性を判断して付箋を移動しながら組み立て直す活動を行う。
- 教師が児童生徒と一緒にノートを見ながら、児童生徒の考えについて、「一番言いたいことは何だろう」などと個別に聞き取り、児童生徒がそれに答えながら考えを整理できるようにする。
- ペアやグループで互いの考えを伝え合い、アドバイスしたり分からないところ

を質問したりする活動を行う。

1学期に行った学校訪問研修会では、児童生徒の考えを可視化するための道具として、多くの学校が「ホワイトボード」を取り入れた授業を実践していた。そこで、ホワイトボードの活用について考えてみる。

ホワイトボードは、白紙の状態から書き始めるので、自由度が高い。教室に、いつでも使えるホワイトボードをグループで1枚以上は常備しておきたい。使いなれば、考えの可視化が短時間でできるようになり、グループ活動の評価もしやすくなる。その際、何のためにホワイトボードに書くのかをはっきりさせないと、丁寧に仕上げることに集中してしまい、逆に学びの妨げになってしまうこともある。

＜何のために取り入れるかを考える＞

ホワイトボードを効果的に活用するためには、児童生徒の学びの過程に沿って取り入れることが大切である。例えば、発想をふくらませる段階で使うのか、整理する段階で使うのか、発表の準備をする段階で使うのか、といった目的によって書き込み方にも大きな違いが出てくる。

○「発想」が目的の場合

「発想」が目的の場合は、思いついた考えをたくさん書き出すことが大事である。このような活動は、スピーチや作文の題材探しの場面や、学級会等での話合いで意見をふくらませる場面で有効である。早く短く書くことを習慣づけ、グループで考える時間を十分確保するよう心がける。そのために、個人の意見は予め付箋に書いておき、発言しながらホワイトボードに貼るとよい。発達段階に応じて、中学年では、ホワイトボードに書き込むのは、囲み、矢印、タイトルを書くなどに限定することも必要である。

○「整理・分類」が目的の場合

「整理・分類」が目的の場合は、グループで出た意見を俯瞰してとらえることができるので、付箋を使えば同じ考えをまとめたり、順位づけを行ったりすることが容易にでき、話合いをまとめる方向に向かいやすくなる。また、ホワイトボードは書いたり消したりが容易にできるため、グループの考えを練り上げる際にも役に立つ。

○「発表の準備」が目的の場合

学校訪問研修会で授業を参観した際、最も多く利用されていた使い方は、グループでの話し合いの後で、学級全体に向けて発表する際、ホワイトボードに班の意見を書いて示すというものである。

この場合は、学級全員が見るため、遠くからでも見えるように「大きな文字で書く」「短い言葉（キャッチフレーズ）にまとめる」などを考慮する。足りない言葉は、説明で補う、大事な部分には色ペンを使うなど、短い時間で自分たちの考えを伝えるためには、主張点をはっきりさせる必要があることを指導することが大切である。

(2) 家庭学習に関する指導の充実を図る

① 家庭学習に関する指導のポイント

家庭学習に関係する児童生徒質問紙と平均正答率との相関関係を調べた結果、「家庭学習」が学力に影響していることが改めて確認できた。「家庭学習」に関係する児童生徒質問紙と平均正答率に相関関係が見られた内容が以下の質問である。

- 11 (11) 学校の宿題をしている。(中学校)
- 12 (12) 学校の授業の予習・復習をしている。(小学校)
- 14 (14) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している。
- 16 (16) 放課後に家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている。

また、平均正答率と「家庭学習」に関する学校質問紙との間に、(平均正答率の)優位性が見られた内容が以下の質問である。

- 63 (60) 保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけ。
- 66 (63) 家庭学習の取り組みとして、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える。
- 67 (64) 算数(数学)の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与える。
- 68 (65) 算数(数学)の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題についての評価・指導した。
- 70 (67) 理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与える。
- 71 (68) 理科の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題についての評価・指導した。

児童生徒質問紙 16 (16) の放課後の過ごし方として、テレビ、ゲーム、インターネット等をしている児童生徒の割合は、平均正答率との負の相関関係が見られ、14 (14) の学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している児童生徒の割合は、平均正答率と正の相関関係が見られた。このことから、帰宅後の家庭での過ごし方が学力に影響していることが分かる。

家庭学習の内容に関しては、小学校では、家庭で宿題をしている児童の割合は、どの学校も比較的高いため、相関関係は見られないが、学校の予習・復習をしている児童の割合と平均正答率については、正の相関関係が見られた。一方、中学校では、教科書を使って家庭で宿題をしていると答えた生徒の割合と、平均正答率には、正の相関関係が見られた。

これらの結果から、児童生徒の発達の段階を考慮しながら、学習内容が確実に定着する課題の出し方を工夫する必要がある。

学校質問紙では、「課題を与えた」に加え、「課題について評価・指導したか」も、平均正答率に影響している。[参考：学校質問紙 67 (64) 68 (65) 70 (67) 71 (68)]
課題を与えるだけでなく、その後の指導と評価を丁寧に粘り強く行うことが重要である。

課題の与え方のポイント

- ・ 次の授業を見据えた、復習を中心とした課題
- ・ 継続的に指導・評価を行うことを念頭においた課題

② 家庭学習の習慣化を図る具体例

※ 家庭学習の具体例については、授業のイロハ20「家庭学習の課題の出し方」を参照

全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率の比較 (H19～H30)

・H19、20、21、25、26、27、28、29：対象学年全員参加方式で実施。
 ・H22、24：抽出方式で実施。(抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。)
 ・H23：未実施。

【小学校6年生】

	国語 A											国語 B										
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	79	75	66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62	62	60
市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4	4	4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4	4	5
市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	1	1	0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1	2	2
富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	78	74	66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61	60	58
県一全国	-2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	3	3	4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3	2	3
全国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	75	71	62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58	58	55

	算数 A											算数 B										
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	84	68	67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53	49	57
市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	5	4	3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6	3	5
市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	2	2	0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2	2	2
富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	82	66	66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51	47	55
県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	3	2	2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4	1	3
全国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	79	64	63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47	46	52

【中学校3年生】

	国語 A											国語 B										
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	80	78	76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71	76	63
市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	3	2	4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4	4	2
市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	0	0	-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0	1	0
富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	80	78	77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71	75	63
県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	3	2	5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4	3	2
全国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	77	76	72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8	67	72	61

	数学 A											数学 B										
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	68	71	64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49	51	51
市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	3	5	4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5	3	4
市一県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	0	1	-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0	1	0
富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	68	70	65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5	49	50	51
県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	3	4	5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5	2	4
全国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	65	66	60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44	48	47

※ 平成28年度より、整数値で公表(平成29年度からは、文部科学省から届く市・県の調査結果が整数値)

【小学校6年生】

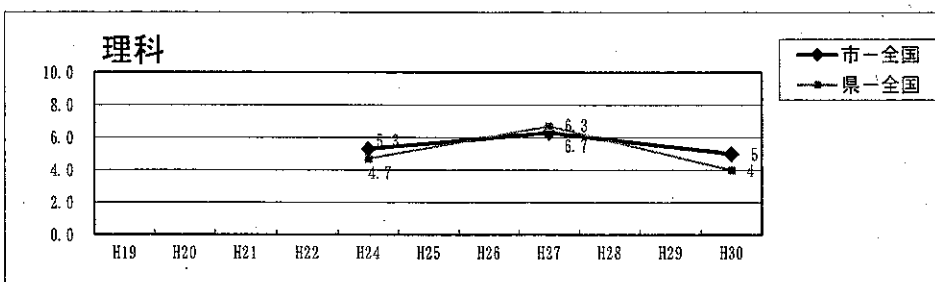
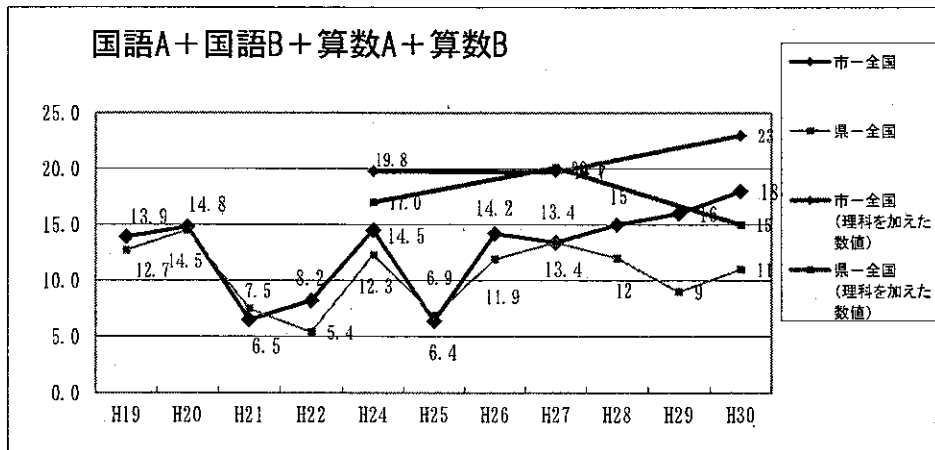
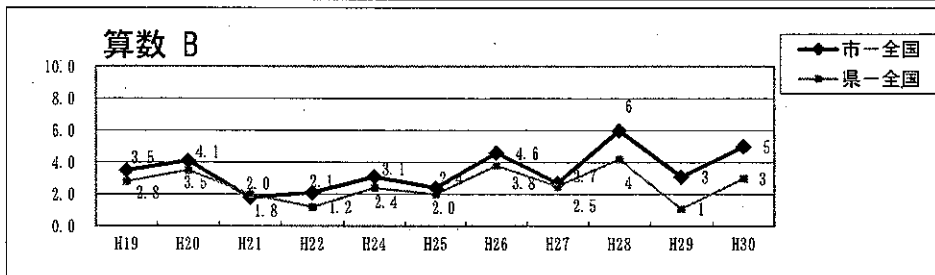
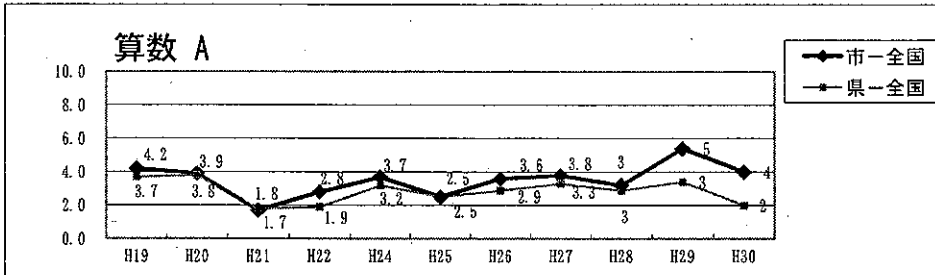
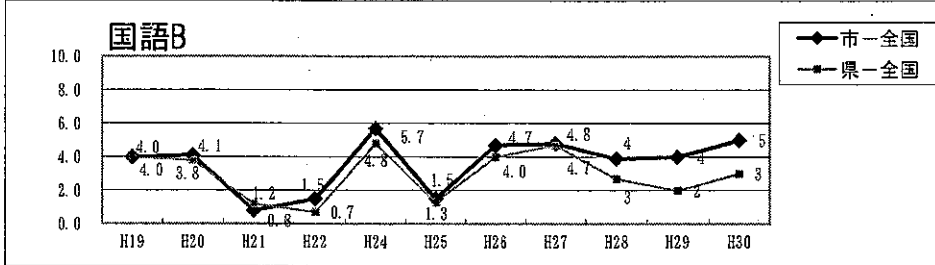
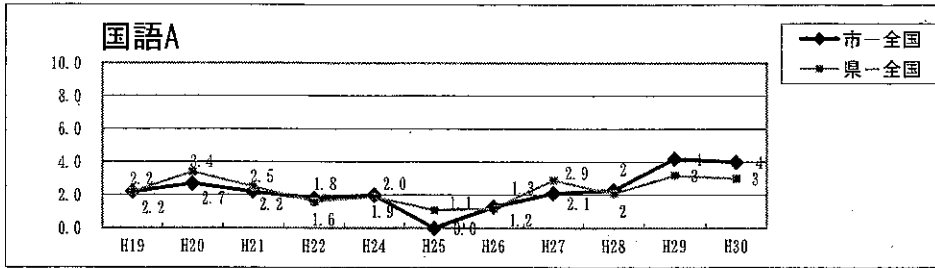
	理科										
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
富山市					66.2			67.1			65
市一全国					5.3			6.3			5
市一県					0.6			-0.4			1
富山県					65.6			67.5			64
県一全国					4.7			6.7			4
全国					60.9			60.8			60

【中学校3年生】

	理科										
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
富山市					58.0			60.8			70
市一全国					7.0			7.8			4
市一県					1.2			1.6			0
富山県					56.8			59.2			70
県一全国					5.8			6.2			4
全国					51.0			53.0			66

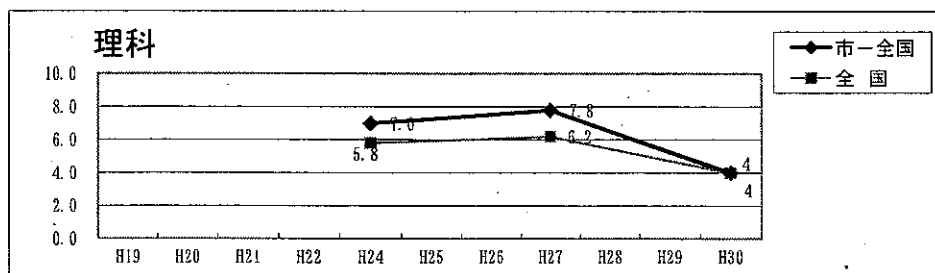
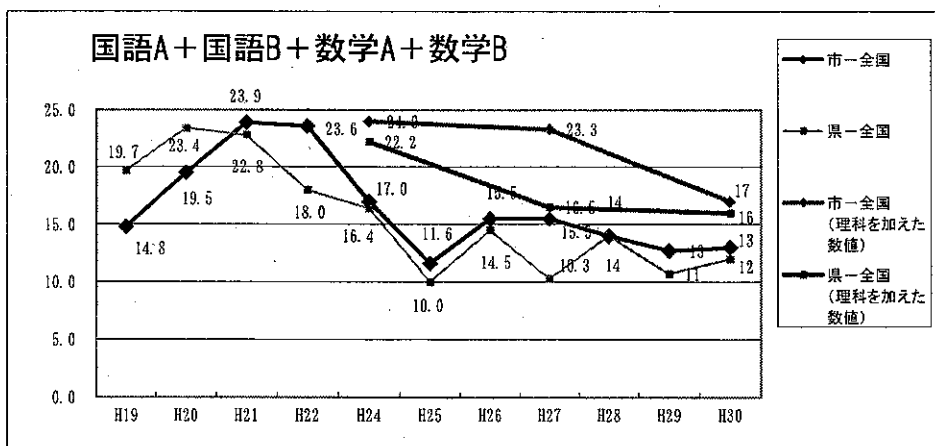
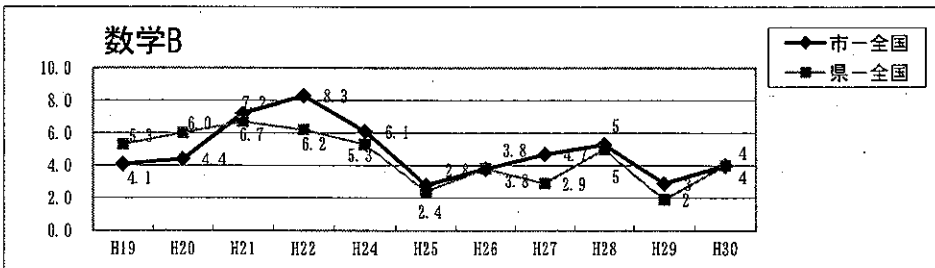
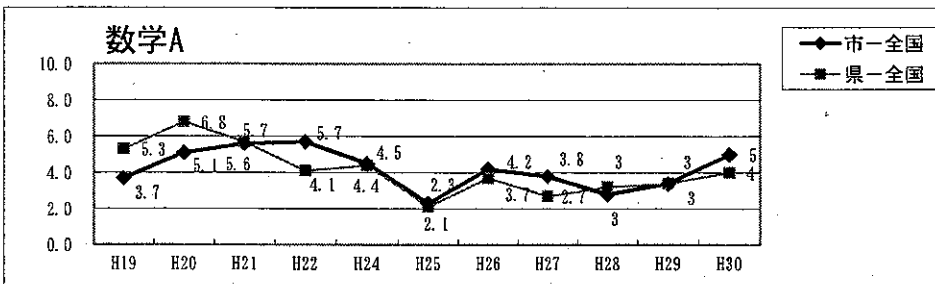
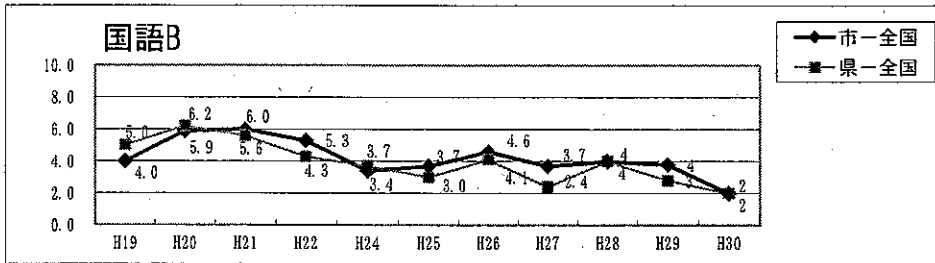
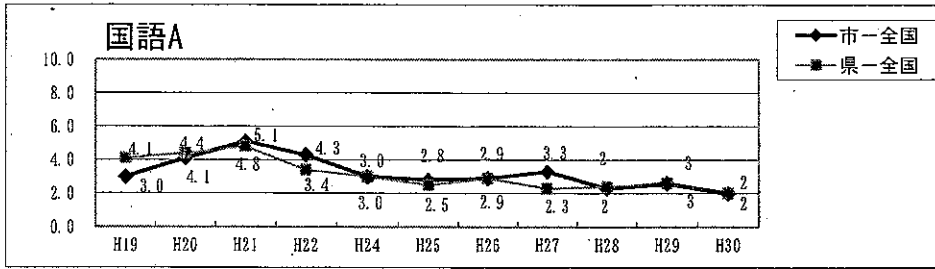
【小学校6年生】

※全国の平均正答率との差(%)



【中学校3年生】

※全国の平均正答率との差(%)



2 小学校6年生 設問別結果一覧

【小学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式		正答率	誤答率	無解答率	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝記的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式				短答式
1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	3・4イ										富山市	94.0	5.9	0.1
													全国(公立)	90.8	9.1	0.1
2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える	5・6イ										富山市	76.4	23.2	0.4
													全国(公立)	73.8	25.9	0.3
3	【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を捉える	3・4イ										富山市	78.4	21.4	0.2
													全国(公立)	73.9	25.9	0.2
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える	5・6エ										富山市	74.6	24.9	0.5
													全国(公立)	74.0	25.7	0.3
5	【春休みの出来事の一部】の中で、一部とつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主題と述語との関係などに注意して、文を正しく書く	3・4(1)イ(キ)										富山市	47.1	49.9	3.0
													全国(公立)	35.5	60.6	3.9
6	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する(心を打たれる)	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う	3・4(1)ア(イ)										富山市	91.6	7.9	0.9
													全国(公立)	90.4	8.2	1.4
7	【話を聞いている様子の一部】の「ア」「イ」に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	相手や場面に応じて適切に敬語を使う	5・6(1)イ(ク)										富山市	62.0	36.4	1.6
													全国(公立)	56.0	41.3	2.7
8ア	文の中で漢字を使う(せい造)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6(1)ウ(ア)										富山市	76.8	20.0	3.2
													全国(公立)	73.4	21.4	5.2
8イ	文の中で漢字を使う(せつ備)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6(1)ウ(ア)										富山市	83.0	12.8	4.2
													全国(公立)	82.2	11.5	6.3

【小学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式							
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式					
8ウ	文の中で漢字を使う(しよう語)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)							○	○					<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: white;"></div> 正答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: #cccccc;"></div> 誤答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: black;"></div> 無解答率 </div>
8エ	文の中で漢字を使う(かん理)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)							○	○					
8オ	文の中で漢字を使う(せう極的)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)							○	○					

【小学校 国語 B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			<input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な書体文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語に関する知識・理解	選択式	短答式		記述式
1-1	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	5・6 オ												富山市: 87.4 (誤答率 12.3) 0.3 全国(公立): 82.5 (誤答率 17.1) 0.4
1-2	【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する	計画的に話し合うための司会の役割について捉える	5・6 オ												富山市: 80.4 (誤答率 19.1) 0.5 全国(公立): 77.5 (誤答率 21.9) 0.6
1-3	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 <input type="checkbox"/> を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどとして考えをまとめる	5・6 エ	5・6 ウ											富山市: 43.2 (誤答率 51.2) 5.6 全国(公立): 33.8 (誤答率 60.0) 6.2
2-1	「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に、 <input type="checkbox"/> のように書いた理由として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える	5・6 イ												富山市: 62.8 (誤答率 36.2) 1.0 全国(公立): 57.6 (誤答率 40.7) 1.7
2-2	【おすすめする文章】の <input type="checkbox"/> に、むしろ歯を防く効果について【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書く	5・6 ウ												富山市: 19.6 (誤答率 77.7) 2.7 全国(公立): 13.5 (誤答率 83.8) 2.7
2-3	【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える	5・6 ウ												富山市: 73.8 (誤答率 24.1) 2.1 全国(公立): 70.8 (誤答率 25.8) 3.4
3-1	山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む	5・6 イ												富山市: 51.6 (誤答率 45.9) 2.5 全国(公立): 49.4 (誤答率 47.4) 3.2
3-2	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 <input type="checkbox"/> 最も心がひかれた一文とその理由の文章の <input type="checkbox"/> に入る内容を書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく	5・6 ウ	5・6 ウ											富山市: 58.9 (誤答率 31.0) 10.1 全国(公立): 52.3 (誤答率 35.8) 11.9

【小学校 算数A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率	誤答率	無解答率	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	理解	数量や図形についての知識	選択式	短答式				記述式
1 (1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	4A (3)イ 5A (3)														富山市 69.0 29.5 1.5 全国(公立) 62.9 35.4 1.7
1 (2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	5A (3)ア														富山市 73.1 25.3 1.6 全国(公立) 66.7 30.9 2.4
1 (3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ	1に当たる大きさを求める問題では、除数がある場合でも除法を用いることを理解している	5A (3)ア														富山市 69.1 29.3 1.6 全国(公立) 65.3 32.5 2.2
2	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ	小数の除法の意味について理解している	3A (4)ア 4A (3)イ 5A (3)ア														富山市 42.5 57.0 0.5 全国(公立) 39.9 59.1 1.0
3	3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	2A (1)イ														富山市 81.9 17.5 0.6 全国(公立) 76.4 22.3 1.3
4 (1)	面積がそろっている㊸と㊹の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している	5B (4)ア														富山市 88.7 11.0 0.3 全国(公立) 87.8 11.6 0.6
4 (2)	㊸と㊹の二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している	5B (4)ア														富山市 53.2 46.1 0.7 全国(公立) 50.1 48.9 1.0
5 (1)	角(㊺)の角の大きさが、何度であるかを選ぶ	180° の角の大きさを理解している	4B (2)ア														富山市 95.2 4.1 0.7 全国(公立) 94.4 4.5 1.1
5 (2)	分度器の目盛りを読み、 180° よりも大きい角の大きさを求める	180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求めることができる	4B (2)ア														富山市 63.5 35.5 1.0 全国(公立) 58.5 40.0 1.5

【小学校 算数A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式						
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式				
6	空間の中にあるものの位置を正しく書く	示された表現方法に基づき、空間の中にあるものの位置を表現することができる			4C (3)												<p>□ 正答率 □ 誤答率 ■ 無解答率</p> <p>富山市: 正答率 77.5%, 誤答率 20.3%, 無解答率 2.2%</p> <p>全国(公立): 正答率 73.5%, 誤答率 23.2%, 無解答率 3.3%</p>
7 (1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	円周率の意味について理解している			3C (1)ウ 5C (1)エ												<p>富山市: 正答率 44.0%, 誤答率 54.2%, 無解答率 1.8%</p> <p>全国(公立): 正答率 41.6%, 誤答率 55.2%, 無解答率 3.2%</p>
7 (2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	直径の長さや円周の長さの関係について理解している			3C (1)ウ 5C (1)エ												<p>富山市: 正答率 57.7%, 誤答率 40.4%, 無解答率 1.9%</p> <p>全国(公立): 正答率 55.6%, 誤答率 40.8%, 無解答率 3.6%</p>
8	200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ	百分率を求めることができる															<p>富山市: 正答率 59.4%, 誤答率 38.5%, 無解答率 2.1%</p> <p>全国(公立): 正答率 52.9%, 誤答率 42.5%, 無解答率 4.6%</p>
9	示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる															<p>富山市: 正答率 71.2%, 誤答率 25.0%, 無解答率 3.8%</p> <p>全国(公立): 正答率 63.6%, 誤答率 29.2%, 無解答率 7.2%</p>

【小学校 算数B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数式や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式				記述式	
1 (1)	合同な直角三角形で書き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	合同な直角三角形で書き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる			2C (1) イ 3C (1) ア 4C (1) イ 5C (1) アイウ												富山市 77.2 22.5 0.3 全国(公立) 71.7 28.0 0.3
1 (2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できる		4B (2) アイ	3C (1) ア 4C (1) イ 5C (1) アイウ												富山市 54.1 33.4 2.5 全国(公立) 48.2 37.4 4.4
2 (1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる	1A (2) ア 2A (2) ア	3B (3) イ	2D (1)												富山市 75.3 23.7 1.0 全国(公立) 70.5 28.0 1.5
2 (2)	1回の玉入れゲームの時間を3分にもっと近い時間にするための玉を捨てる時間を、表に整理して求める	示された考え方を解釈し、ほかの数の場合を裏に整理し、条件に合う時間を判断することができる	3A (2) イ 3A (3) イ	3B (3) アイ	3D (3)												富山市 52.8 46.1 1.1 全国(公立) 47.9 50.5 1.6
3 (1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる			3D (3) ア												富山市 28.5 56.8 14.7 全国(公立) 20.7 61.3 18.0
3 (2)	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる			3D (3) ア 5D (4)												富山市 27.4 72.0 0.6 全国(公立) 23.9 75.0 1.1
4 (1)	「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す	示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、分配法則の式に表現することができる	2A (1) エ 2A (3) ウ 3A (3) ウ		4D (2) ア 4D (3) ア												富山市 68.3 26.4 5.3 全国(公立) 62.7 31.1 6.2
4 (2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	2A (2) ア 2A (3) アウ 4A (3) イ														富山市 64.0 26.5 9.4 全国(公立) 59.5 29.2 11.3

【小学校 算数B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式														
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	理解	数量や図形についての知識	選択式	短答式	記述式											
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> □ 正答率 ▨ 誤答率 ■ 無解答率 </div>																									
5 (1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	2A(3) ア 3A(3) イ 3A(4) ア 4A(3) イ	2B (1) ア									<table border="1"> <caption>5(1) 正答率・誤答率・無解答率</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富山市</td> <td>50.6</td> <td>36.1</td> <td>13.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>43.2</td> <td>40.2</td> <td>16.6</td> </tr> </tbody> </table>	地域	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	50.6	36.1	13.3	全国(公立)	43.2	40.2	16.6
地域	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																						
富山市	50.6	36.1	13.3																						
全国(公立)	43.2	40.2	16.6																						
5 (2)	4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ	折り紙の輪の色の特徴性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	1A(1) イ 2A(1) ア 3A(4) ア 4A(3) イ 5A(1) イ										<table border="1"> <caption>5(2) 正答率・誤答率・無解答率</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>正答率 (%)</th> <th>誤答率 (%)</th> <th>無解答率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富山市</td> <td>69.5</td> <td>24.1</td> <td>6.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>66.5</td> <td>25.2</td> <td>8.3</td> </tr> </tbody> </table>	地域	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	69.5	24.1	6.4	全国(公立)	66.5	25.2	8.3
地域	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																						
富山市	69.5	24.1	6.4																						
全国(公立)	66.5	25.2	8.3																						

【小学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題 主として「活用」に関する問題	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式										
				A区分 物質	B区分 エネルギー 生命 地球		自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式							
<input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率																				
1 (1)	野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ	安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を選択できる	○		4B (2)ア		○			○										
			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>83.4</td> <td>16.5</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>82.1</td> <td>17.9</td> <td>0.0</td> </tr> </table>										富山市	83.4	16.5	0.1	全国(公立)	82.1	17.9	0.0
富山市	83.4	16.5	0.1																	
全国(公立)	82.1	17.9	0.0																	
1 (2)	鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点に基づいた内容なのかを選ぶ	調べた結果について考察する際、問題に対応した視点で分析できる	○		4B (1)ア		○			○										
			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>79.5</td> <td>20.4</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>76.2</td> <td>23.7</td> <td>0.1</td> </tr> </table>										富山市	79.5	20.4	0.1	全国(公立)	76.2	23.7	0.1
富山市	79.5	20.4	0.1																	
全国(公立)	76.2	23.7	0.1																	
1 (3)	腕を曲げることで骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	○		4B (1)イ		○			○										
			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>84.0</td> <td>13.3</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>79.4</td> <td>16.8</td> <td>3.8</td> </tr> </table>										富山市	84.0	13.3	2.7	全国(公立)	79.4	16.8	3.8
富山市	84.0	13.3	2.7																	
全国(公立)	79.4	16.8	3.8																	
1 (4)	人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ	人の腕が曲がる仕組みについて、模型に適用できる	○		4B (1)アイ		○			○										
			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>58.0</td> <td>41.5</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>56.6</td> <td>43.0</td> <td>0.4</td> </tr> </table>										富山市	58.0	41.5	0.5	全国(公立)	56.6	43.0	0.4
富山市	58.0	41.5	0.5																	
全国(公立)	56.6	43.0	0.4																	
2 (1)	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	○		5B (3)ア		○			○										
			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>91.1</td> <td>8.7</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>83.6</td> <td>16.3</td> <td>0.1</td> </tr> </table>										富山市	91.1	8.7	0.2	全国(公立)	83.6	16.3	0.1
富山市	91.1	8.7	0.2																	
全国(公立)	83.6	16.3	0.1																	
2 (2)	流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に結果を見通して実験を構想できる	○		5B (3)ア		○			○										
			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>61.6</td> <td>38.2</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>55.4</td> <td>44.3</td> <td>0.3</td> </tr> </table>										富山市	61.6	38.2	0.2	全国(公立)	55.4	44.3	0.3
富山市	61.6	38.2	0.2																	
全国(公立)	55.4	44.3	0.3																	
2 (3)	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削れ方を選び、選んだわけを書く	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	○		5B (3)ウ		○			○										
			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>24.8</td> <td>74.5</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>20.1</td> <td>78.9</td> <td>1.0</td> </tr> </table>										富山市	24.8	74.5	0.7	全国(公立)	20.1	78.9	1.0
富山市	24.8	74.5	0.7																	
全国(公立)	20.1	78.9	1.0																	
2 (4)	上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる	○		5B (3)ウ アイ		○			○										
			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>65.5</td> <td>34.2</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>59.8</td> <td>39.9</td> <td>0.3</td> </tr> </table>										富山市	65.5	34.2	0.3	全国(公立)	59.8	39.9	0.3
富山市	65.5	34.2	0.3																	
全国(公立)	59.8	39.9	0.3																	
3 (1)	風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	乾電池のつなぎ方を考えることと電流の向きが変わることとを実際の回路に適用できる	○		4A (3)ア		○			○										
			<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>76.7</td> <td>23.0</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>63.5</td> <td>36.2</td> <td>0.3</td> </tr> </table>										富山市	76.7	23.0	0.3	全国(公立)	63.5	36.2	0.3
富山市	76.7	23.0	0.3																	
全国(公立)	63.5	36.2	0.3																	

【小学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題 主として「活用」に関する問題	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式															
				A区分		B区分		自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式													
				物質	エネルギー	生命	地球																				
3 (2)	回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ	電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○		4A (3)ア																						
<p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率 </p>																											
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>54.7</td> <td>44.8</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>47.7</td> <td>51.8</td> <td>0.5</td> </tr> </table>																				富山市	54.7	44.8	0.5	全国(公立)	47.7	51.8	0.5
富山市	54.7	44.8	0.5																								
全国(公立)	47.7	51.8	0.5																								
3 (3)	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ	実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる	○		4A (3)ア																						
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>67.9</td> <td>31.5</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>59.4</td> <td>40.0</td> <td>0.6</td> </tr> </table>																				富山市	67.9	31.5	0.6	全国(公立)	59.4	40.0	0.6
富山市	67.9	31.5	0.6																								
全国(公立)	59.4	40.0	0.6																								
3 (4)	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた種類の光電池の適切な位置や向きを選ぶ	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係をもとに合ったものづくりに適用できる	○		4A (3)イ			3B (3)ア																			
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>46.5</td> <td>52.9</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>41.9</td> <td>57.5</td> <td>0.6</td> </tr> </table>																				富山市	46.5	52.9	0.6	全国(公立)	41.9	57.5	0.6
富山市	46.5	52.9	0.6																								
全国(公立)	41.9	57.5	0.6																								
4 (1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方法身に付けている	○		5A (1)イ																						
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>72.5</td> <td>26.8</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>71.1</td> <td>28.4</td> <td>0.5</td> </tr> </table>																				富山市	72.5	26.8	0.7	全国(公立)	71.1	28.4	0.5
富山市	72.5	26.8	0.7																								
全国(公立)	71.1	28.4	0.5																								
4 (2)	海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法を分析して考察できる	○		5A (1)イウ																						
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>90.6</td> <td>8.6</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>89.4</td> <td>10.0</td> <td>0.6</td> </tr> </table>																				富山市	90.6	8.6	0.8	全国(公立)	89.4	10.0	0.6
富山市	90.6	8.6	0.8																								
全国(公立)	89.4	10.0	0.6																								
4 (3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	○		5A (1)ウ																						
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>50.2</td> <td>48.4</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>42.7</td> <td>56.0</td> <td>1.3</td> </tr> </table>																				富山市	50.2	48.4	1.4	全国(公立)	42.7	56.0	1.3
富山市	50.2	48.4	1.4																								
全国(公立)	42.7	56.0	1.3																								
4 (4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	実験結果から考えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	○		4A (2)ウ 5A (1)イウ			4B (3)イ																			
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>39.6</td> <td>53.3</td> <td>7.1</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>35.9</td> <td>55.2</td> <td>8.9</td> </tr> </table>																				富山市	39.6	53.3	7.1	全国(公立)	35.9	55.2	8.9
富山市	39.6	53.3	7.1																								
全国(公立)	35.9	55.2	8.9																								

3 中学校3年生 設問別結果一覧

【中学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率	誤答率	無解答率								
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語文化と国語	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語に関する知識・理解	選択式	短答式				記述式							
1-1	スピーチの感想に対して先生が述べた言葉として適切なものを選択する	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	2	エ																				
<div style="text-align: right;"> <input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率 </div>																								
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>88.9</td> <td>11.0</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>87.4</td> <td>12.5</td> <td>0.1</td> </tr> </table>																	富山市	88.9	11.0	0.1	全国(公立)	87.4	12.5	0.1
富山市	88.9	11.0	0.1																					
全国(公立)	87.4	12.5	0.1																					
2-1	図書だよりの下書きの構成を説明したものとより適切なものを選択する	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する	1	イ																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>91.1</td> <td>8.6</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>89.5</td> <td>10.2</td> <td>0.3</td> </tr> </table>																	富山市	91.1	8.6	0.3	全国(公立)	89.5	10.2	0.3
富山市	91.1	8.6	0.3																					
全国(公立)	89.5	10.2	0.3																					
2-2	二つの意見の内容を一文で書き加える	伝えたい事柄や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く	2	ウ																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>69.8</td> <td>27.4</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>64.0</td> <td>32.7</td> <td>3.3</td> </tr> </table>																	富山市	69.8	27.4	2.8	全国(公立)	64.0	32.7	3.3
富山市	69.8	27.4	2.8																					
全国(公立)	64.0	32.7	3.3																					
3-1	「それは掛け値のない」二秒の間のできごとである」を説明したものとより適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	1	ア																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>89.4</td> <td>10.4</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>88.2</td> <td>11.6</td> <td>0.2</td> </tr> </table>																	富山市	89.4	10.4	0.2	全国(公立)	88.2	11.6	0.2
富山市	89.4	10.4	0.2																					
全国(公立)	88.2	11.6	0.2																					
3-2	父と保吉の言動についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	1	ウ																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>84.7</td> <td>15.0</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>82.8</td> <td>17.0</td> <td>0.2</td> </tr> </table>																	富山市	84.7	15.0	0.3	全国(公立)	82.8	17.0	0.2
富山市	84.7	15.0	0.3																					
全国(公立)	82.8	17.0	0.2																					
4-1	意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する	1	エ																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>64.3</td> <td>35.4</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>62.8</td> <td>37.0</td> <td>0.2</td> </tr> </table>																	富山市	64.3	35.4	0.3	全国(公立)	62.8	37.0	0.2
富山市	64.3	35.4	0.3																					
全国(公立)	62.8	37.0	0.2																					
4-2	段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する	段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする	2	エ																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>83.8</td> <td>15.8</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>79.4</td> <td>20.3</td> <td>0.3</td> </tr> </table>																	富山市	83.8	15.8	0.4	全国(公立)	79.4	20.3	0.3
富山市	83.8	15.8	0.4																					
全国(公立)	79.4	20.3	0.3																					
5-1	本文の第六段落の説明として適切なものを選択する	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる	2	イ																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>78.5</td> <td>20.8</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>76.3</td> <td>23.2</td> <td>0.5</td> </tr> </table>																	富山市	78.5	20.8	0.7	全国(公立)	76.3	23.2	0.5
富山市	78.5	20.8	0.7																					
全国(公立)	76.3	23.2	0.5																					
5-2	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとより適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	1	イ																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>62.1</td> <td>37.3</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>59.5</td> <td>40.1</td> <td>0.4</td> </tr> </table>																	富山市	62.1	37.3	0.6	全国(公立)	59.5	40.1	0.4
富山市	62.1	37.3	0.6																					
全国(公立)	59.5	40.1	0.4																					
6-1	話し合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1	オ																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>富山市</td> <td>72.7</td> <td>26.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>72.4</td> <td>27.1</td> <td>0.5</td> </tr> </table>																	富山市	72.7	26.6	0.7	全国(公立)	72.4	27.1	0.5
富山市	72.7	26.6	0.7																					
全国(公立)	72.4	27.1	0.5																					

【中学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率	誤答率	無解答率	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	言語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	解・技能	選択式	短答式				記述式
6二	話し合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く	話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す	1 オ														<p>富山市: 正答率 67.0, 誤答率 22.4, 無解答率 10.6 全国(公立): 正答率 65.8, 誤答率 20.9, 無解答率 13.3</p>
7一	場面にはまる語句の意味として適切なものを選択する(ハナイカダ)	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える			1 (イイウ)												<p>富山市: 正答率 89.3, 誤答率 9.9, 無解答率 0.8 全国(公立): 正答率 87.3, 誤答率 12.1, 無解答率 0.6</p>
7二	「それでは」の働きとして適切なものを選択する	接続詞の働きについて理解する			1 (イイウ)												<p>富山市: 正答率 88.6, 誤答率 10.4, 無解答率 1.0 全国(公立): 正答率 88.4, 誤答率 10.7, 無解答率 0.9</p>
8一1	漢字を書く(紙をひもでたばねる)				2 (イウウ)												<p>富山市: 正答率 80.7, 誤答率 8.2, 無解答率 11.1 全国(公立): 正答率 79.0, 誤答率 7.8, 無解答率 13.2</p>
8一2	漢字を書く(舞台の立之が上がる)	文脈に即して漢字を正しく書く			2 (イウウ)												<p>富山市: 正答率 79.7, 誤答率 11.0, 無解答率 9.3 全国(公立): 正答率 72.9, 誤答率 12.7, 無解答率 14.4</p>
8一3	漢字を書く(先制点をユル)				2 (イウウ)												<p>富山市: 正答率 71.4, 誤答率 10.1, 無解答率 18.5 全国(公立): 正答率 71.4, 誤答率 9.1, 無解答率 19.5</p>
8二1	漢字を読む(模型を作る)				2 (イウウ)												<p>富山市: 正答率 97.2, 誤答率 1.1, 無解答率 1.4 全国(公立): 正答率 95.7, 誤答率 2.4, 無解答率 1.9</p>
8二2	漢字を読む(池の水が渡る)	文脈に即して漢字を正しく読む			2 (イウウ)												<p>富山市: 正答率 98.1, 誤答率 1.0, 無解答率 0.9 全国(公立): 正答率 97.8, 誤答率 1.3, 無解答率 0.9</p>
8二3	漢字を読む(技を磨く)				2 (イウウ)												<p>富山市: 正答率 97.9, 誤答率 1.0, 無解答率 1.1 全国(公立): 正答率 98.1, 誤答率 0.8, 無解答率 1.1</p>
8三ア	適切な語句を選択する(立場の異なる両者の主張は終始一貫して変わらず、最後まで結論が出なかった)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			1 (イイウ)												<p>富山市: 正答率 79.8, 誤答率 19.3, 無解答率 0.9 全国(公立): 正答率 77.7, 誤答率 21.5, 無解答率 0.8</p>
8三イ	適切な語句を選択する(魚の中には群れを作って泳ぐ習性をもつものがある)				2 (イイウ)												<p>富山市: 正答率 90.4, 誤答率 8.8, 無解答率 0.8 全国(公立): 正答率 91.0, 誤答率 8.5, 無解答率 0.5</p>

【中学校 国語A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式		正答率	誤答率	無解答率		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	表現の発展	言語の関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解	選択式				短答式	記述式
8三ウ	適切な敬語を選択する(先生が私たちに大切なことをおっしゃった)				2 (1)イ (1)ウ									富山市	91.5	7.5	1.0
														全国(公立)	88.0	11.4	0.6
8三エ	適切な語句を選択する(彼はせきを切ったように話し始めた)				1 (1)イ (1)ウ									富山市	29.4	69.3	1.3
														全国(公立)	29.2	69.9	0.9
8三オ	適切な語句を選択する(意見の折り合いをつける)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			1 (1)イ (1)ウ									富山市	66.8	32.0	1.2
														全国(公立)	61.8	37.3	0.9
8三カ	適切な語句を選択する(わたしが健康になったのは、ひとえに母のおかげです)				1 (1)イ (1)ウ									富山市	67.3	31.5	1.2
														全国(公立)	65.4	33.6	1.0
8三キ	適切な語句を選択する(姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。二弟、妹は一人で本を読むことが好きだ)				1 (1)イ (1)ウ									富山市	95.7	3.2	1.1
														全国(公立)	95.2	3.8	1.0
8四1	「心を打たれる」の意味として適切なものを選択する	慣用句の意味を理解する			3・4 (1)ア (1)イ									富山市	94.6	4.4	1.0
														全国(公立)	94.7	4.5	0.8
8四2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のか分かる	目的に応じた文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く			2 (1)イ (1)ウ									富山市	23.7	69.9	6.4
														全国(公立)	22.3	71.2	6.5
8五	作品への助言として適切なものを選択する	行書の基本となる書き方を理解して書く			1 (2)イ									富山市	56.3	42.3	1.4
														全国(公立)	54.4	44.4	1.2
8六1	『雑非子』の中の語句の訳を抜き出す(いはく)	古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える			2 (1)ア (1)イ									富山市	91.5	4.1	4.4
														全国(公立)	91.1	3.1	5.1
8六2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(とはざざるなし)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む			1 (1)ア (1)イ									富山市	67.0	26.9	6.1
														全国(公立)	63.0	29.6	7.4
8六3	『雑非子』の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する	古典に表れたものの方や考え方を理解する			2 (1)ア (1)イ									富山市	82.0	15.9	2.1
														全国(公立)	81.3	16.5	2.2

【中学校 国語B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	語彙・表現	言語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	解読・技能	選択式	短答式	記述式		
1-1	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える			1イ											<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> ☐ 正答率 ▨ 誤答率 ■ 無解答率 </div>
1-2	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する	文章の構成や展開について自分の考えをもつ			1エ											
1-3	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く	2ウ		1イ											
2-1	二人の質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える			1エ											
2-2	二人に続いてする質問を書く	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する			1エ											
2-3	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す			1イ											
3-1	登場人物についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			1ウ											
3-2	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる			2イ											
3-3	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く	1ウ		1イ	2(1)ア(4)										

【中学校 数学A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		正答率	誤答率	無解答率		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の	数学的な技能	知識や図形などについての	選択式	短答式				記述式	
1 (1)	数直線上の点が表示された負の整数の値を読み取る	数直線上に表示された負の整数を読み取ることができる	1(1)														富山市 95.7 3.9 0.4 全国(公立) 94.6 5.0 0.4
1 (2)	絶対値が6である数を書く	絶対値の意味を理解している	1(1)														富山市 82.4 15.3 2.3 全国(公立) 69.0 23.7 7.3
1 (3)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	1(1)														富山市 79.2 20.1 0.7 全国(公立) 68.9 30.1 1.0
1 (4)	ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	1(1)														富山市 54.9 44.9 0.2 全国(公立) 54.2 45.7 0.1
2 (1)	「1個 a kgの荷物3個と1個 b kgの荷物4個の全体の重さは15kg以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	1(2)														富山市 66.0 29.6 4.4 全国(公立) 41.5 50.0 8.5
2 (2)	$6a^2b \div 3a$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	2(1)														富山市 91.9 5.5 2.6 全国(公立) 91.0 6.6 2.4
2 (3)	$a=3, b=-4$ のときの式 $a-2b$ の値を求める	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	1(2)														富山市 82.2 13.8 4.0 全国(公立) 78.5 16.7 4.8
2 (4)	等式 $5x = \frac{1}{2}ah$ を、 a について解く	具体的な場面面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	2(1)														富山市 59.0 29.9 11.1 全国(公立) 48.2 36.5 5.3
3 (1)	一元一次方程式 $6x-3=9$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	1(3)														富山市 67.5 31.9 0.6 全国(公立) 64.0 35.4 0.6
3 (2)	比例式 $x:20=3:4$ を解く	簡単な比例式を解くことができる	1(3)														富山市 91.4 5.3 3.3 全国(公立) 87.8 7.2 5.0

【中学校 数学A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		正答率	誤答率	無解答率	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の	数学的な技能	知識・理解	数や図形などについての	選択式				短答式
3 (3)	連立二元一次方程式 $5x - 2y = 10$ $3x - 2y = 2$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ													
3 (4)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	2(2)ウ													
4 (1)	ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している	小6(1)イ													
4 (2)	$\triangle ABC$ を辺ABが辺ACに重なるように折った線を作図するための線を選ぶ	折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している	1(1)ア													
4 (3)	長方形ABCDを、点Aを中心として時計回りに 90° だけ回転移動した図形をかく	回転移動した図形をかくことができる	1(1)イ													
5 (1)	直方体において、与えられた面に平行な辺を書く	空間における平面と直線との位置関係(面と辺が平行であること)を理解している	1(2)ア													
5 (2)	半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く	半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している	1(2)イ													
5 (3)	与えられた円柱の見取図から、その円柱の投影図を選ぶ	見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる	1(2)イ													
5 (4)	底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ	四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $1/3$ であることを理解している	1(2)ウ													

【中学校 数学A】

設問番号	設問の概要	出題の趣意	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		正答率	誤答率	無解答率		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方の数学への関心・意欲・態度	数学的な技能	知識・理解	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式				記述式	
6 (1)	三角形の外角を表す式を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している		2(1)ア													富山市 71.8 27.8 0.4 全国(公立) 71.4 28.2 0.4
6 (2)	五角形の1つの頂点を動かし、角の大きさを90°に変えたときの内角の和の変化として正しいものを選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している		2(1)イ													富山市 77.0 22.5 0.5 全国(公立) 75.7 23.9 0.4
7 (1)	△ABCと△DEFが合同であるための条件として、正しいものを選ぶ	2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解している		2(2)ア													富山市 77.1 22.3 0.6 全国(公立) 72.0 27.5 0.5
7 (2)	長方形で成り立ち、ひし形でも成り立つことを選ぶ	長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している		2(2)ウ													富山市 81.1 18.3 0.6 全国(公立) 78.2 21.3 0.5
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性と意味を理解している		2(2)イ													富山市 48.1 51.3 0.6 全国(公立) 45.5 53.9 0.6
9 (1)	比例 $y=5x$ について、正しい記述を選ぶ	比例 $y=ax$ における比例定数 a の意味を理解している		1(1)イ													富山市 70.0 29.0 1.0 全国(公立) 65.5 33.3 1.2
9 (2)	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる		1(1)エ													富山市 60.4 29.5 10.1 全国(公立) 55.0 32.0 13.0
9 (3)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している		1(1)エ													富山市 59.4 39.3 1.3 全国(公立) 52.8 45.8 1.4
10	点(-2, 3)の位置を座標平面上に示す	座標平面上に点の位置を示すことができる		1(1)ウ													富山市 72.2 24.7 3.1 全国(公立) 69.9 27.2 2.9
11 (1)	一次関数 $y=2x+7$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める	一次関数 $y=ax+b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる		2(1)イ													富山市 51.3 38.0 10.7 全国(公立) 45.3 39.9 4.8

【中学校 数学A】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		正答率	誤答率	無解答率		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学的知識・技能	数学的見方や考え方の活用	数学的探究	数学的表現	数量や図形などについての知識・理解	選択式				短答式	記述式
1.1 (2)	一次関数 $y = -2x + 6$ が表すグラフを選ぶ	一次関数 $y = ax + b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している			2 (1) イ												
1.2	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	一次関数の意味を理解している			2 (1) ア												
1.3	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ	連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解している			2 (1) ウ												
1.4 (1)	生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	最頻値は、資料の中で最も多く出ている値であることを理解している			1 (1) ア												
1.4 (2)	反復標とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる			1 (1) ア												
1.5 (1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している			2 (1) ア												
1.5 (2)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める	表などを利用して、確率を求めることができる			2 (1) ア												

富山市	正答率	誤答率	無解答率	全国(公立)	正答率	誤答率	無解答率
富山市	66.9	32.1	1.0	富山市	35.4	63.6	1.0
全国(公立)	56.3	42.8	0.9	全国(公立)	36.4	62.6	1.0
富山市	62.8	35.6	1.6	富山市	72.3	26.4	1.3
全国(公立)	62.7	35.4	1.9	全国(公立)	68.4	30.2	1.4
富山市	72.0	24.1	3.9	富山市	42.6	55.8	1.6
全国(公立)	74.0	21.4	4.6	全国(公立)	40.2	58.0	1.8
富山市	75.2	16.3	8.5	富山市	75.2	16.3	8.5
全国(公立)	71.3	19.0	9.7	全国(公立)	71.3	19.0	9.7

【中学校 数学B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			<input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input checked="" type="checkbox"/> 無解答率	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の	数学的な技能	の数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式		
1 (1)	全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒数の割合を求める	与えられた情報から必要な情報を要約し、的確に処理することができる				小5数量(3)(1)イ									富山市: 正答率 61.7%, 誤答率 31.0%, 無解答率 7.3% 全国(公立): 正答率 55.7%, 誤答率 33.2%, 無解答率 1.1%
1 (2)	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	与えられた情報を分類整理し、不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる				2(1)イ									富山市: 正答率 52.4%, 誤答率 42.4%, 無解答率 5.2% 全国(公立): 正答率 43.9%, 誤答率 49.1%, 無解答率 7.0%
1 (3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの理由を確率を用いて説明する	不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる				2(1)イ									富山市: 正答率 44.3%, 誤答率 36.3%, 無解答率 4% 全国(公立): 正答率 36.2%, 誤答率 38.9%, 無解答率 9%
2 (1)	はじめの数が10のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる				1(1)ウ									富山市: 正答率 89.9%, 誤答率 5.4%, 無解答率 3.7% 全国(公立): 正答率 89.5%, 誤答率 5.1%, 無解答率 4.4%
2 (2)	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる				2(1)イ									富山市: 正答率 43.3%, 誤答率 38.1%, 無解答率 18.6% 全国(公立): 正答率 37.5%, 誤答率 37.5%, 無解答率 25.0%
2 (3)	計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める	3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる				2(1)イ									富山市: 正答率 71.7%, 誤答率 27.3%, 無解答率 1.0% 全国(公立): 正答率 68.3%, 誤答率 30.6%, 無解答率 1.1%
3 (1)	列車の運行のようすが直線で表されていること的前提となった事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる				2(1)イ									富山市: 正答率 73.3%, 誤答率 26.3%, 無解答率 0.4% 全国(公立): 正答率 67.6%, 誤答率 31.9%, 無解答率 0.5%
3 (2)	グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる				2(1)イ									富山市: 正答率 82.2%, 誤答率 13.1%, 無解答率 4.7% 全国(公立): 正答率 77.7%, 誤答率 15.4%, 無解答率 6.9%
3 (3)	A駅からの道のりが8kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる				2(1)イ									富山市: 正答率 14.8%, 誤答率 57.9%, 無解答率 3% 全国(公立): 正答率 13.2%, 誤答率 53.4%, 無解答率 4%

【中学校 数学B】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率	誤答率	無解答率									
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の	数学的な技能	の知識・理解	数量や図形などについての	選択式	短答式				記述式								
4 (1)	証明されたことから、新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる	2(2)														<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>58.0</td> <td>41.5</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>55.4</td> <td>43.9</td> <td>0.7</td> </tr> </table>	富山市	58.0	41.5	0.5	全国(公立)	55.4	43.9	0.7
富山市	58.0	41.5	0.5																						
全国(公立)	55.4	43.9	0.7																						
4 (2)	平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形となることの証明を完成する	発展的に考え、条件を要えた場合について、証明の一部を書き直すことができる	2(2)														<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>47.7</td> <td>46.7</td> <td>5.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>42.4</td> <td>51.4</td> <td>6.2</td> </tr> </table>	富山市	47.7	46.7	5.6	全国(公立)	42.4	51.4	6.2
富山市	47.7	46.7	5.6																						
全国(公立)	42.4	51.4	6.2																						
4 (3)	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(2)														<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>47.6</td> <td>31.3</td> <td>21.1</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>42.3</td> <td>33.1</td> <td>24.6</td> </tr> </table>	富山市	47.6	31.3	21.1	全国(公立)	42.3	33.1	24.6
富山市	47.6	31.3	21.1																						
全国(公立)	42.3	33.1	24.6																						
5 (1)	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる															<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>19.8</td> <td>61.8</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>16.0</td> <td>59.9</td> <td>1.1</td> </tr> </table>	富山市	19.8	61.8	3.4	全国(公立)	16.0	59.9	1.1
富山市	19.8	61.8	3.4																						
全国(公立)	16.0	59.9	1.1																						
5 (2)	通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	2(1)														<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>11.0</td> <td>81.4</td> <td>7.6</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>10.4</td> <td>83.0</td> <td>6.6</td> </tr> </table>	富山市	11.0	81.4	7.6	全国(公立)	10.4	83.0	6.6
富山市	11.0	81.4	7.6																						
全国(公立)	10.4	83.0	6.6																						

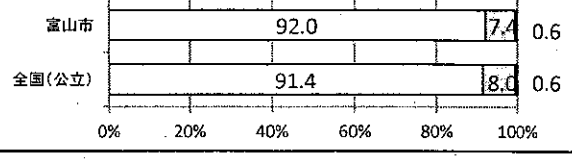
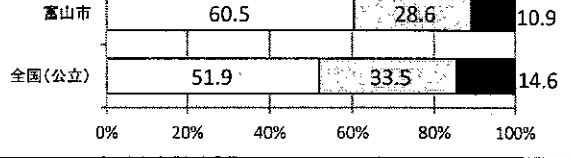
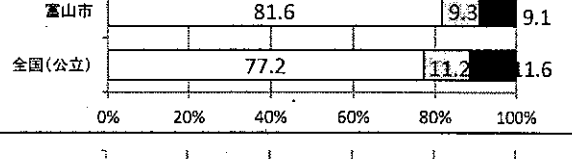
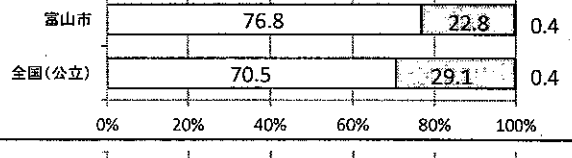
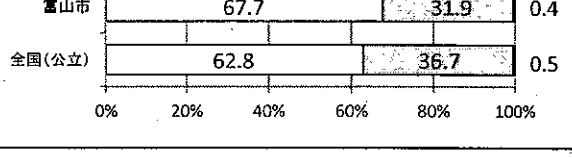
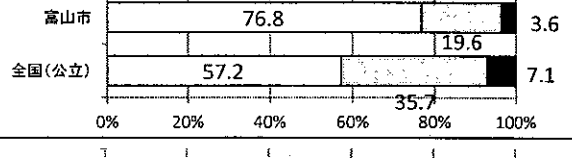
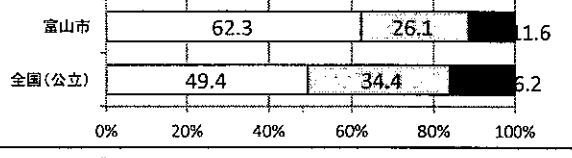
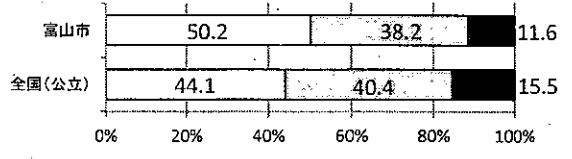
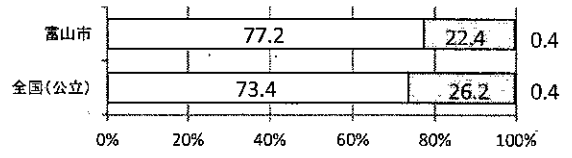
【中学校 理科】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の領域		評価の観点			問題形式	
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	第1分野 物理的領域	第2分野 化学的領域 生物的領域 地学的領域	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象への関心・意欲・態度	選択式	短答式
<input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率											
1 (1)	光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探究する場面において、光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる	光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる	○		(1)ア (1)イ			○		○	
富山市	62.5	37.3	0.2								
全国(公立)	61.7	38.2	0.1								
1 (2)	テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができるかをみる	テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる	○		(1)ア (1)イ			○		○	
富山市	76.1	23.6	0.3								
全国(公立)	73.7	26.1	0.2								
2 (1)	無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる	無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる	○			(3)ウ (3)イ		○		○	
富山市	83.5	16.3	0.2								
全国(公立)	86.2	13.7	0.1								
2 (2) 低い濃度	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に關係しているのかを科学的に探究する学習場面に於いて、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる	○		(2)イ (2)イ			○		○	
富山市	79.1	19.7	1.2								
全国(公立)	76.5	22.3	1.2								
2 (2) 3.0%の濃度	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	○		(2)イ (2)イ			○		○	
富山市	50.7	48.0	1.3								
全国(公立)	46.9	51.8	1.3								
2 (3)	「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる	「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる	○		(3)ウ (3)イ			○		○	
富山市	81.0	18.8	0.2								
全国(公立)	79.7	20.1	0.2								
2 (4)	1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる	1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる	○		(3)ウ (3)イ			○		○	
富山市	62.3	30.1	7.6								
全国(公立)	61.3	29.2	9.5								
3 (1)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかをみる	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる	○			(4)ア (4)イ		○		○	
富山市	42.1	57.6	0.3								
全国(公立)	37.5	62.3	0.2								
3 (2)	太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴についての知識を身に付けている	太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴についての知識を身に付けている	○			(4)ウ (4)イ			○	○	
富山市	64.4	35.2	0.4								
全国(公立)	67.3	32.3	0.4								
3 (3)	シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる	シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる	○			(4)ウ (4)イ		○		○	
富山市	46.7	48.1	5.2								
全国(公立)	52.3	39.8	7.9								

【中学校 理科】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式		正答率	誤答率	無解答率	
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	第1分野 物理的領域	第1分野 化学的領域	第2分野 生物学的領域	第2分野 地学的領域	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解	選択式				記述式
4 (1)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を讀んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかをみる	ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる	○			(2)ア (7)				○	○					
4 (2)	「燃焼中に燃焼士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかをみる	炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる	○			(4)イ (4)				○	○					
4 (3)	「燃焼中に燃焼士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかをみる	化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	○			(4)イ (7)				○	○					
5 (1)	「燃焼中に燃焼士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかをみる	神経系の働きについての知識を身に付けている	○			(3)イ (4)				○	○					
5 (2)	「燃焼中に燃焼士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかをみる	反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる	○			(3)イ (4)				○	○					
6 (1)	「燃焼中に燃焼士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかをみる	電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電氣用記号の知識を身に付けている	○			(3)ア (7)				○	○					
6 (2) 電流	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかをみる	実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる	○			(3)ア (7)				○	○					
6 (2) 抵抗	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかをみる	オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	○			(3)ア (4)				○	○					
6 (3)	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかをみる	豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘できる	○			(3)ア (9)				○	○					

正答率 誤答率 無解答率



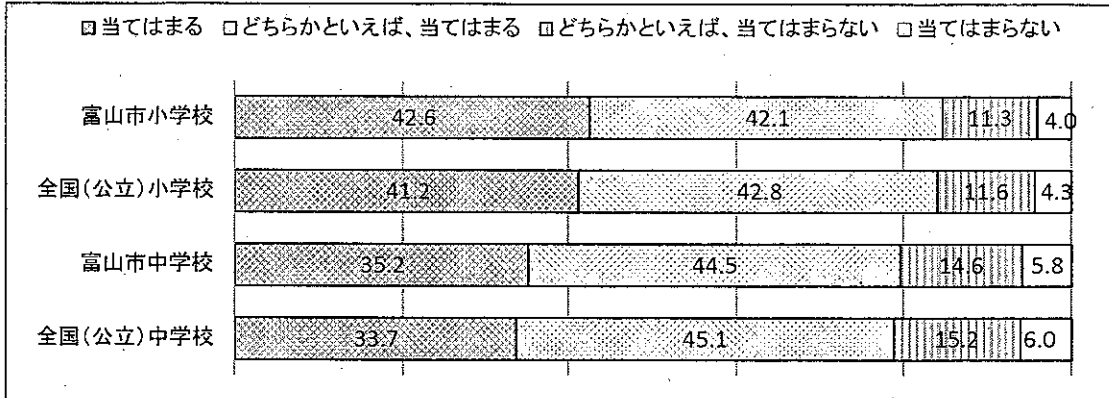
【中学校 理科】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の領域		評価の観点		問題形式		正答率	誤答率	無解答率
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	第1分野 物理的領域	第2分野 化学的領域	生物学的領域	地学的領域	科学的な思考・表現	観察・実験の技能			
7 (1)		地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることに関する知識を身に付けている	○										
7 (2)	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できる	○										
7 (3)		初期微動継続時間の長さと震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用できる	○										
8 (1)	火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている	○										
8 (2)	発熱バックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる	また、探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を深めようとしているかどうかをみる	○										
8 (3)	探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を深めようとしているアルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる		○										
9 (1)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と温度に関する知識・問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている	○										
9 (2)	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる		○										

4 児童生徒質問調査 (★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

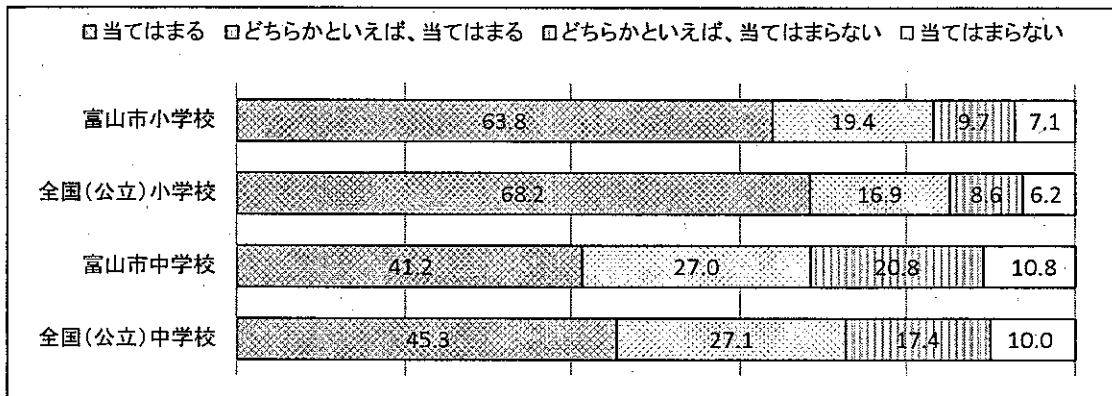
【自尊感情】

1 自分には、よいところがあると思いますか。



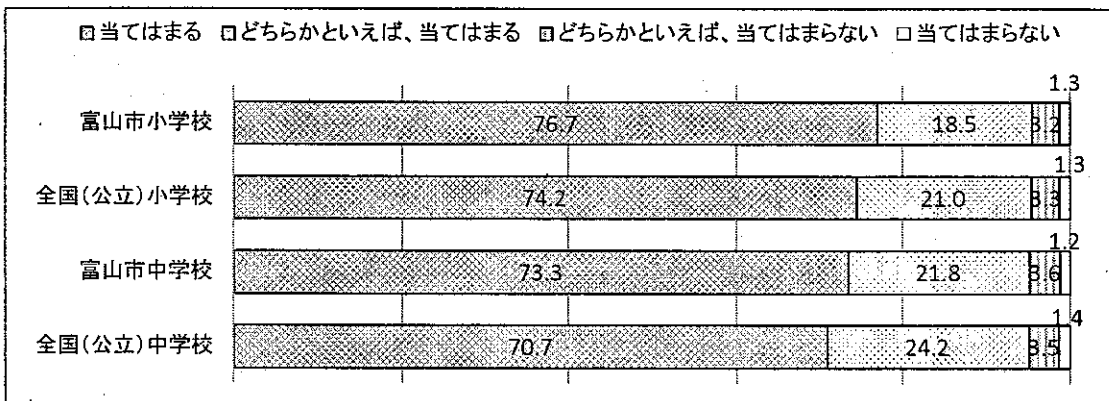
※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

2 将来の夢や目標を持っていますか。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」小学校児童の割合は全国とほぼ同じであるが、中学校生徒の割合はやや低い。

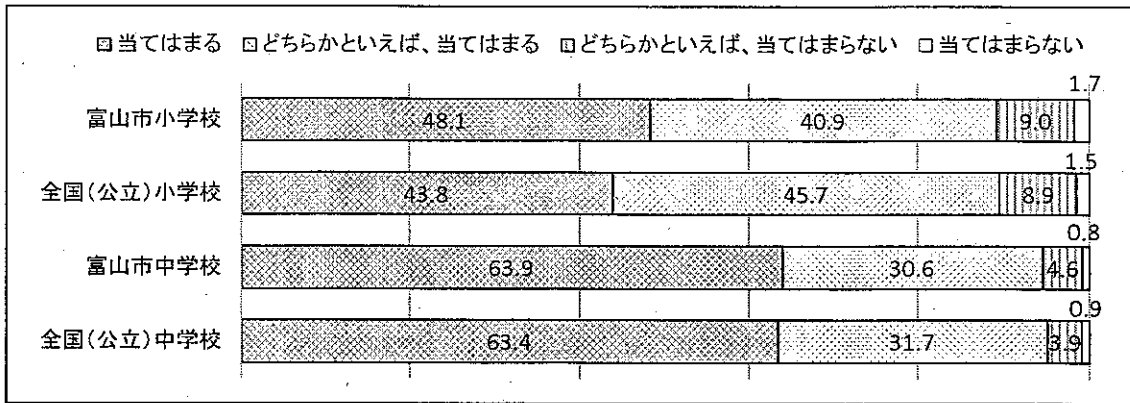
3 ★ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



※ 「人の役に立つ人間になりたいと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

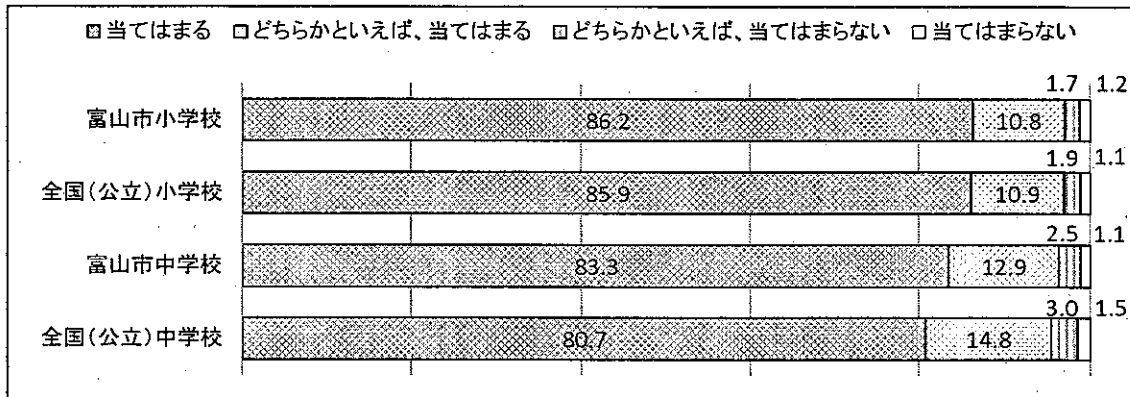
【規範意識】

4 学校のきまり(規則)を守っていますか。



※ 「学校のきまり(規則)を守っている」「どちらかといえば守っている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

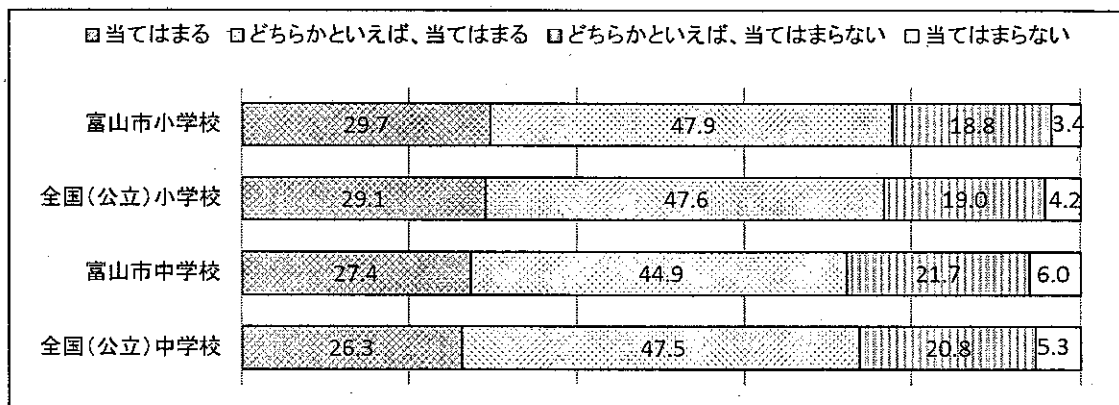
5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



※ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

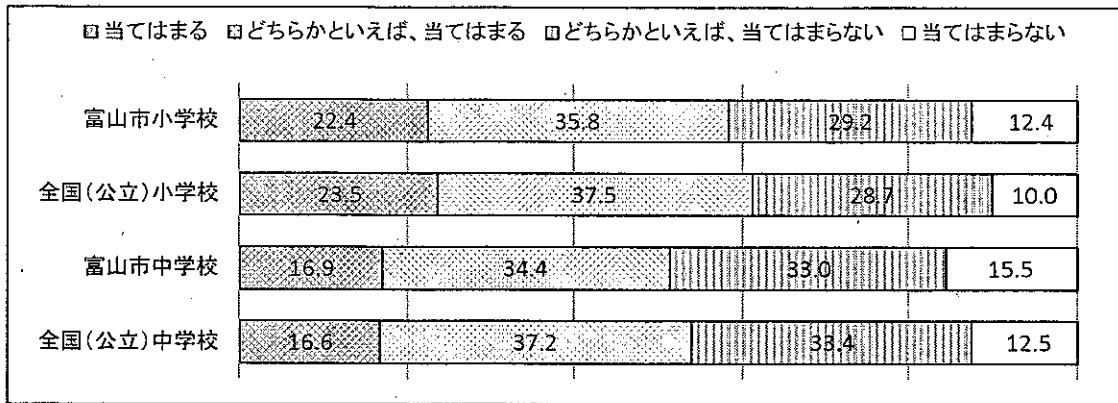
【授業での活動】

6 授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



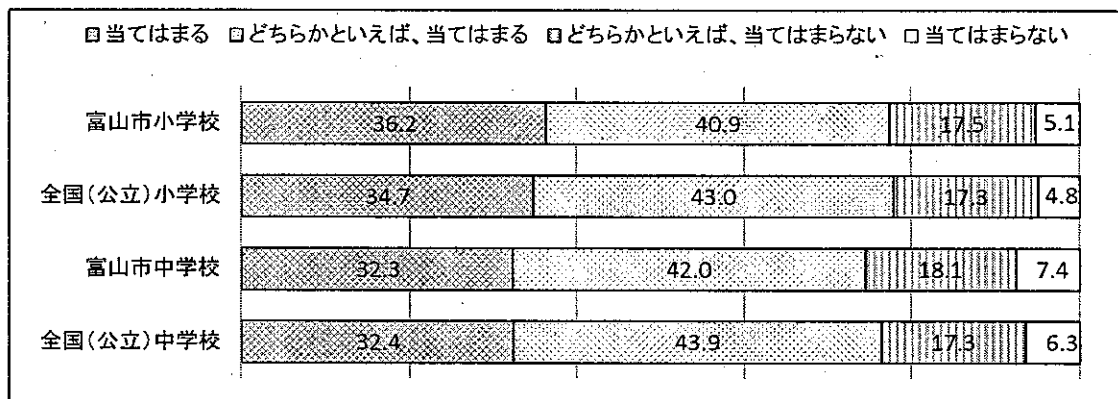
※ 「課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「どちらかといえば思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

7 ★ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



※ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国よりやや低い。

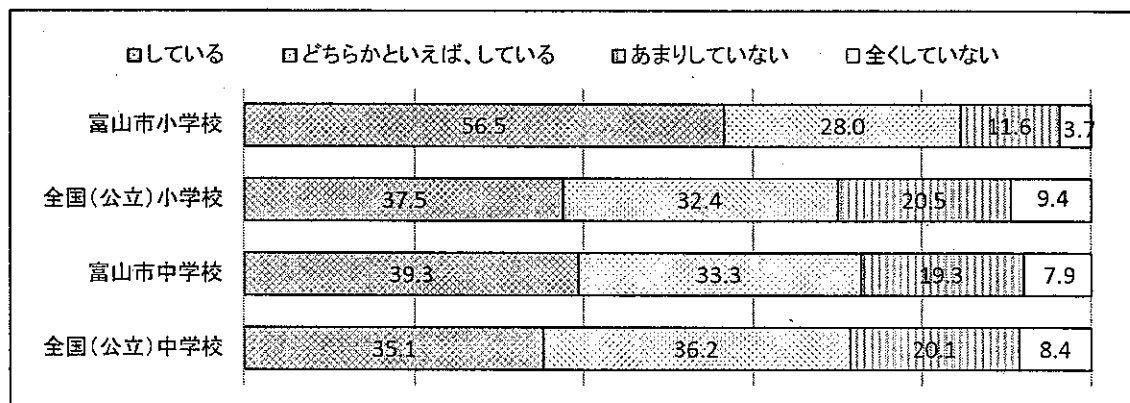
8 ★ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



※ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

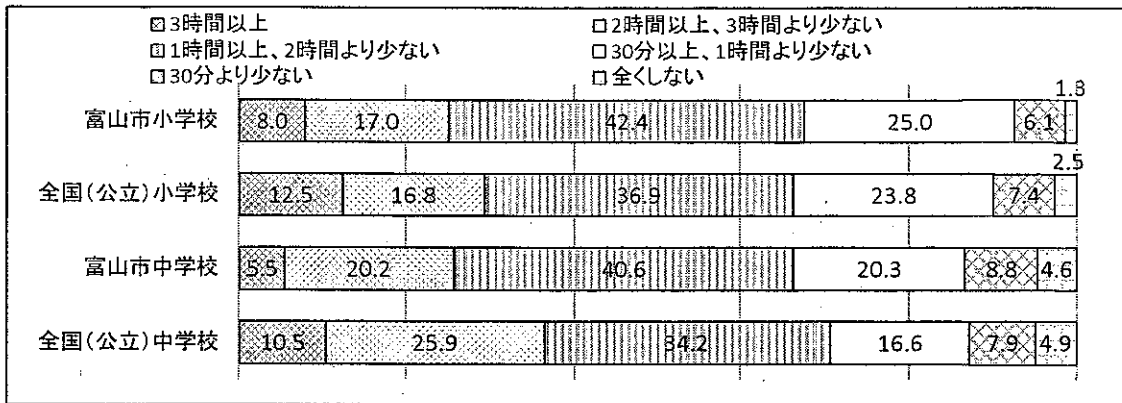
【家庭学習】

9 ★ 家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。



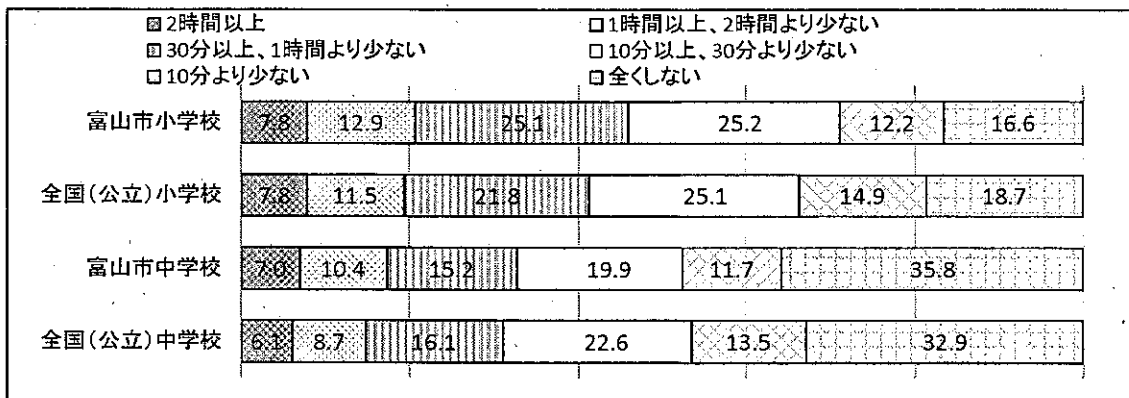
※ 「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」「どちらかといえば、そうしている」小学校児童の割合は全国よりかなり高く、中学校生徒の割合はほぼ同じである。

10 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1時間以上勉強している」小学校児童の割合は全国とほぼ同じで、中学校生徒の割合はやや低い。

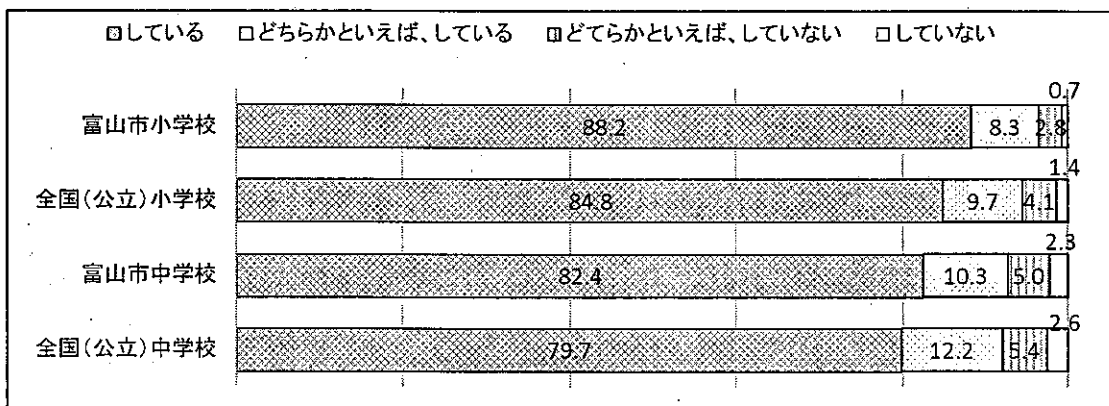
11 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、家や図書館で30分以上読書をしている」小学校児童の割合は全国よりやや高く、中学校生徒はほぼ同じである。

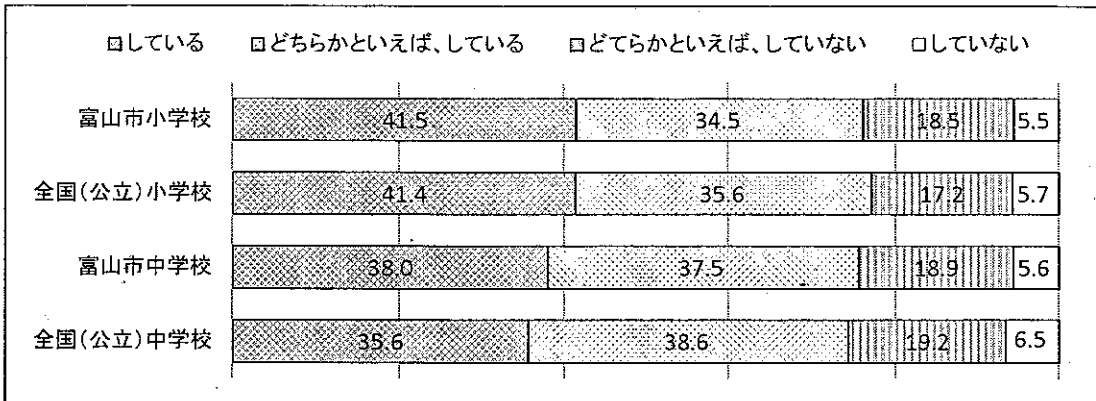
【家庭での生活】

12 ★ 朝食を毎日食べていますか。



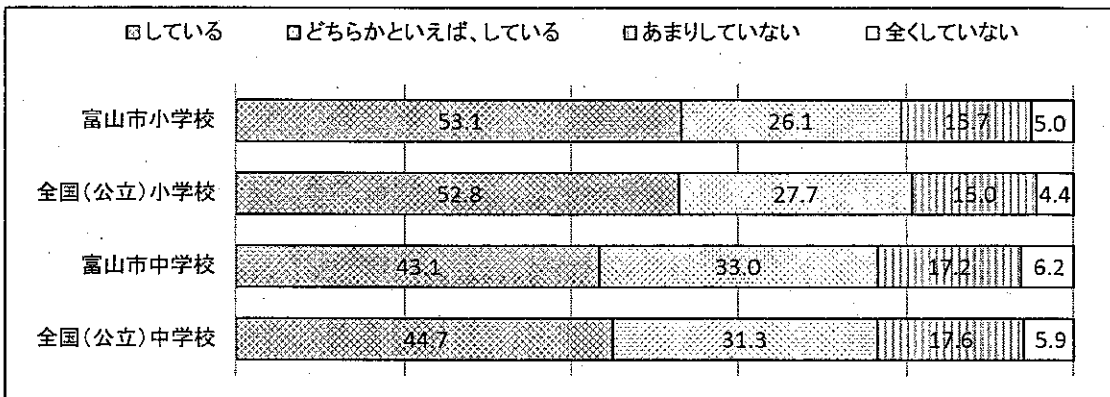
※ 「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば、食べている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

13 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

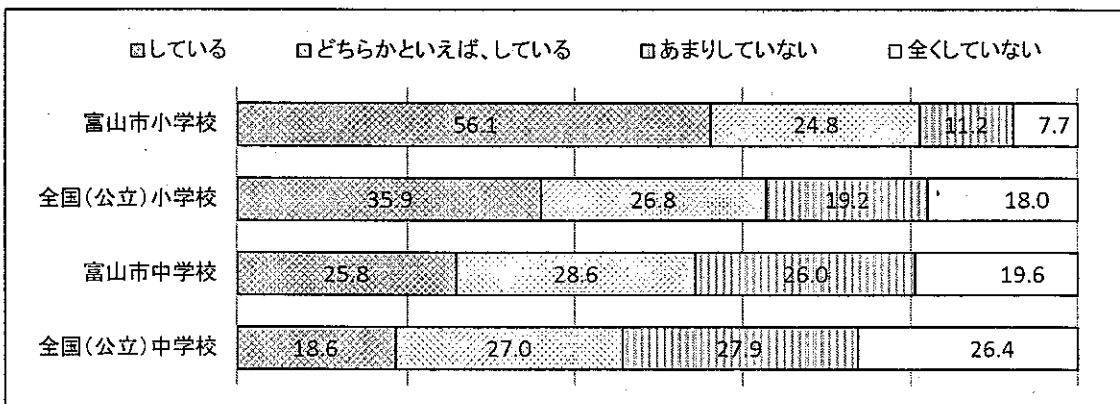
14 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。



※ 「家の人と話をよくしている」「どちらかといえば、している」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

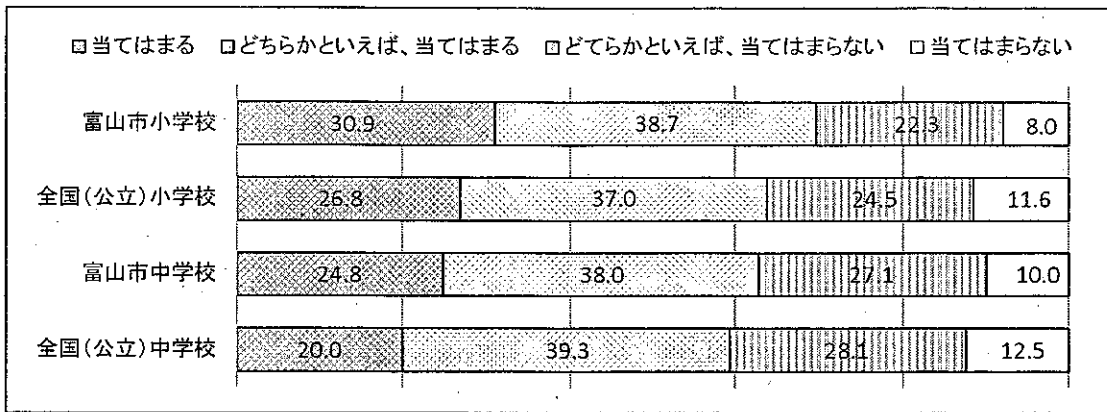
【地域や社会に対する興味・関心】

15 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



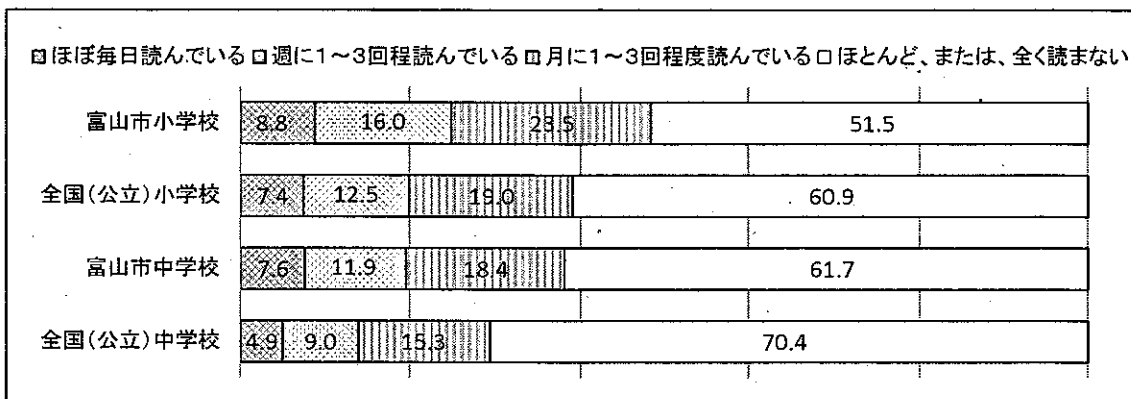
※ 「地域の行事に参加している」「どちらかといえば、している」小学校児童の割合は全国よりかなり高く、中学校生徒の割合は高い。

16 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。



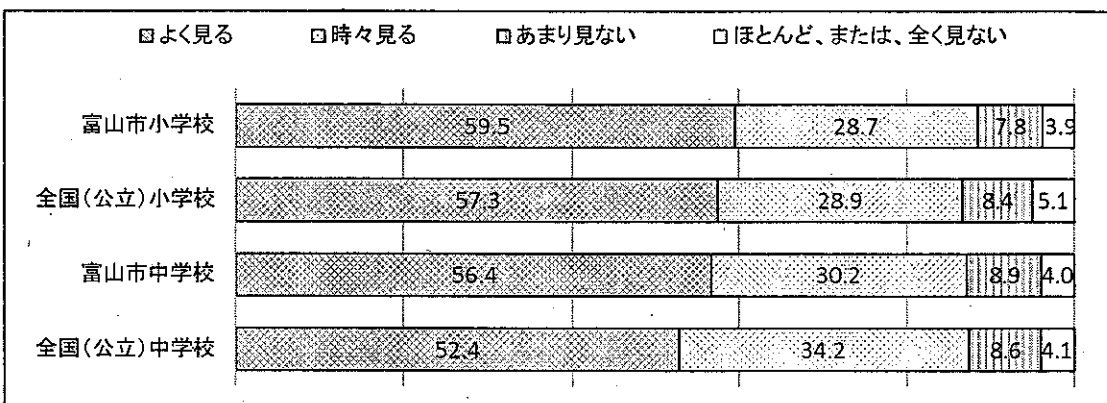
※ 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「どちらかといえば、関心がある」小学校児童の割合は全国より高く、中学校生徒の割合はやや高い。

17 ★ 新聞を読んでいますか。



※ 「新聞を週1回以上読んでいる」小学校児童の割合は、全国よりやや高く、中学校生徒の割合は高い。

18 ★ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

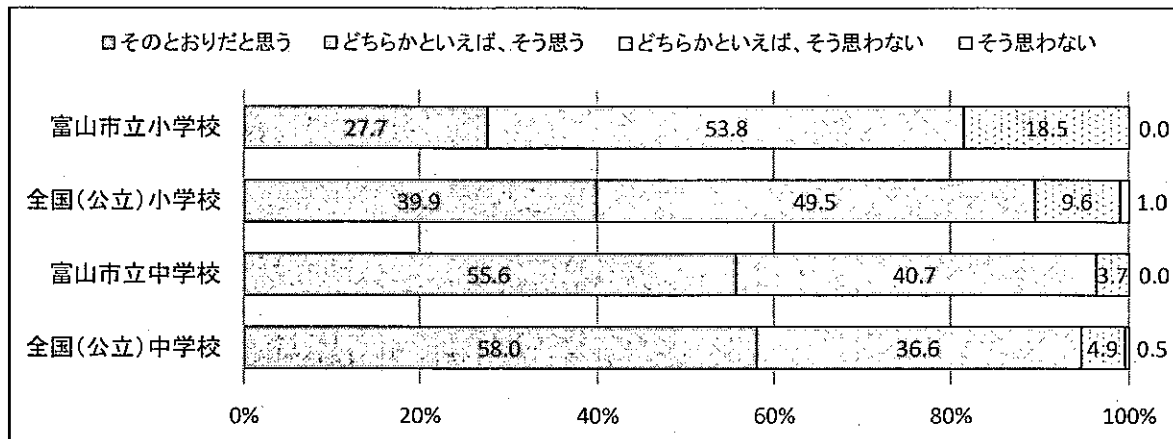


※ 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく、または、時々見る」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

5 学校質問紙調査 (★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)
 ※ その他・無回答は、データに含んでいない。

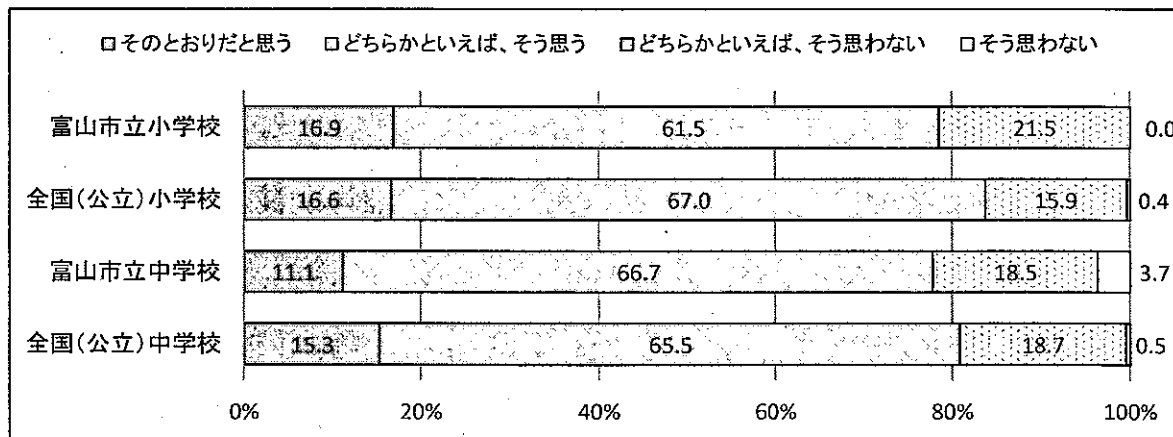
【児童・生徒】

1 授業中の私語が少なく、落ち着いている。



※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。

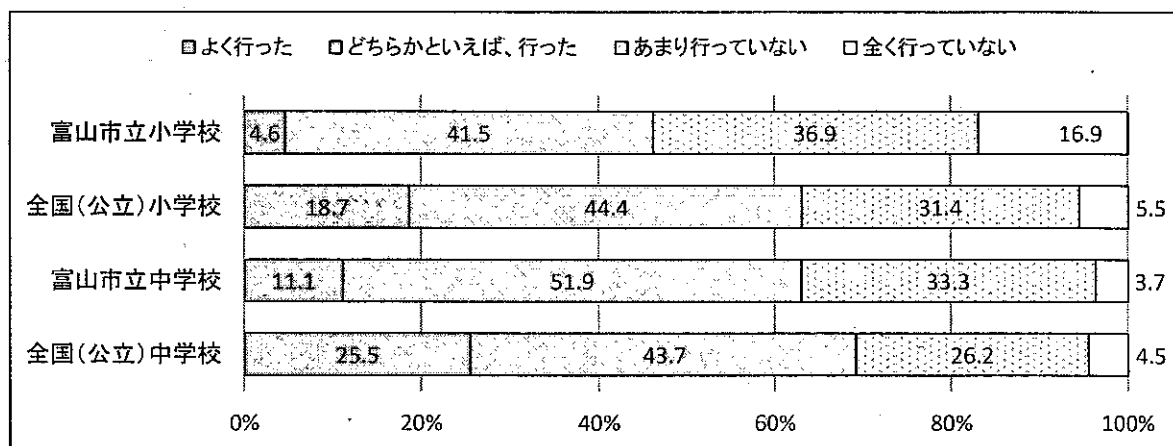
2 ★ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。



※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はやや低い。

【教育課程】

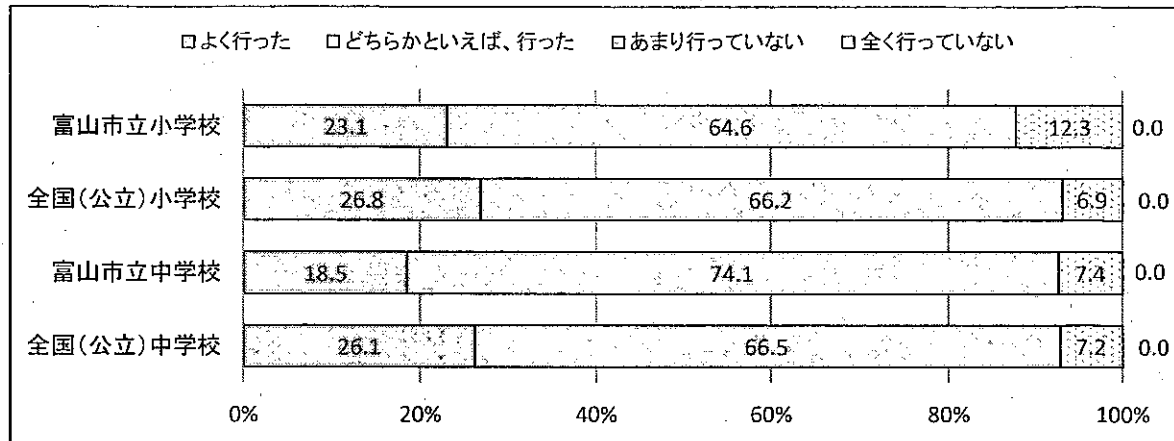
3 近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校は低い。

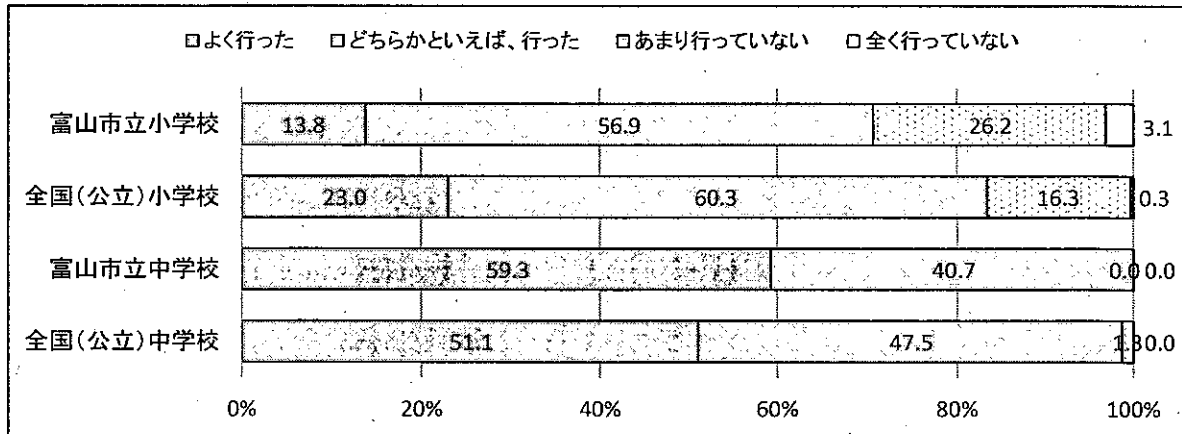
【学習指導・生徒指導】

4 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った。



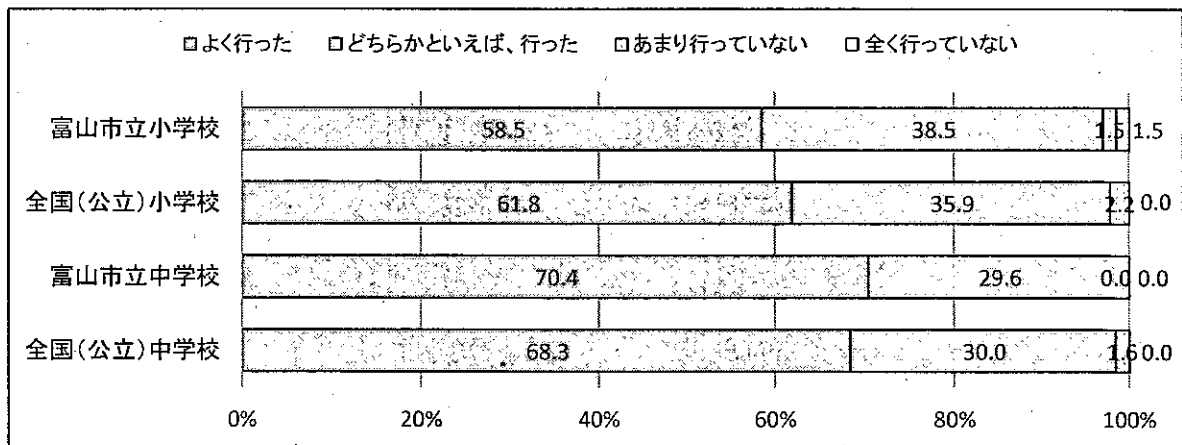
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。

5 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした。



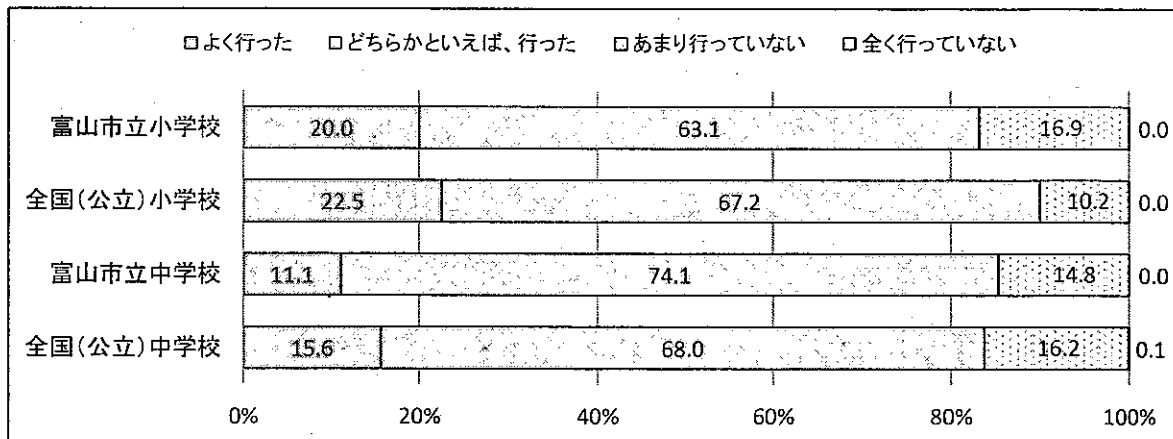
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。

6 学習規律の維持を徹底していた。



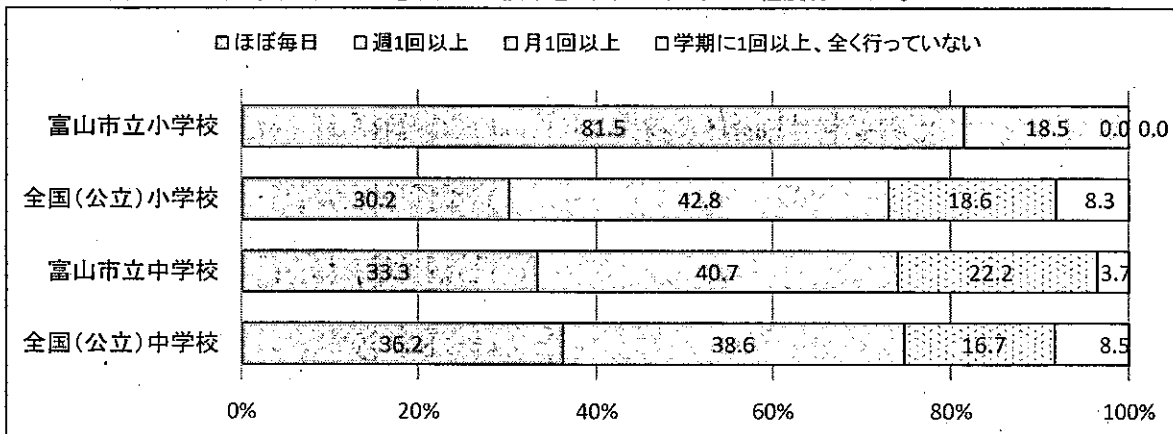
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

7 各教科等で身につけたことを、様々な課題の解決に生かすことが出来るような機会を設けた。



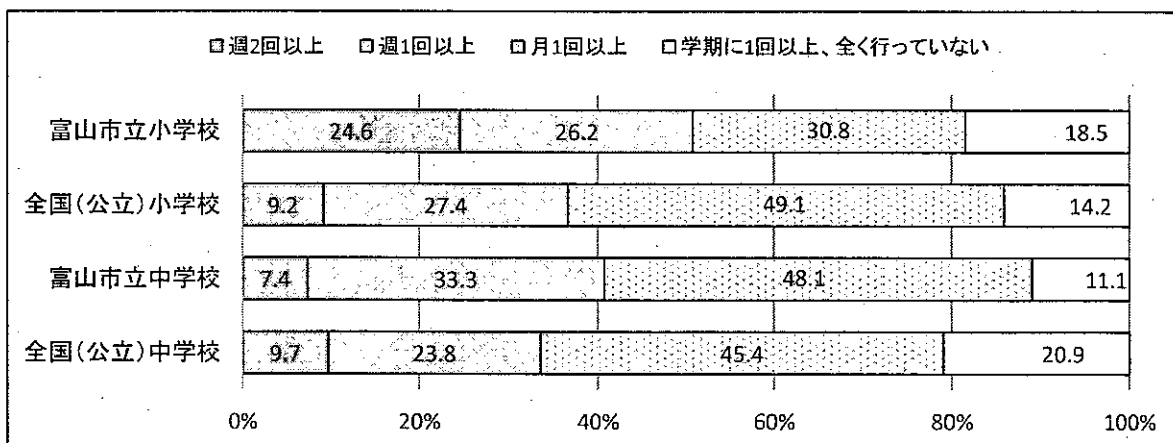
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。

8 ★ 教員が大型提示装置等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか。



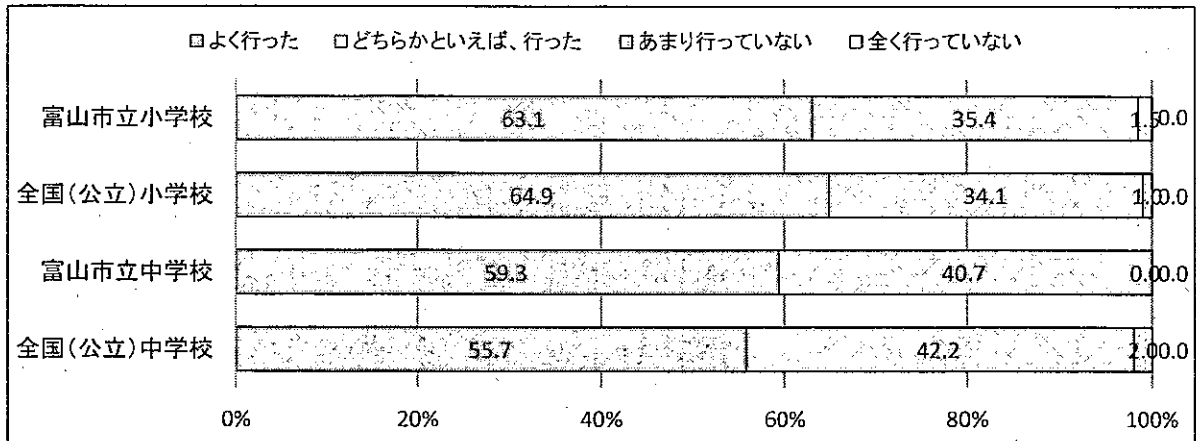
※ 「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり高く、中学校はほぼ同じである。

9 ★ 生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行ったか。



※ 「週2回以上」「週1回以上」と回答した学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり高く、中学校は高い。

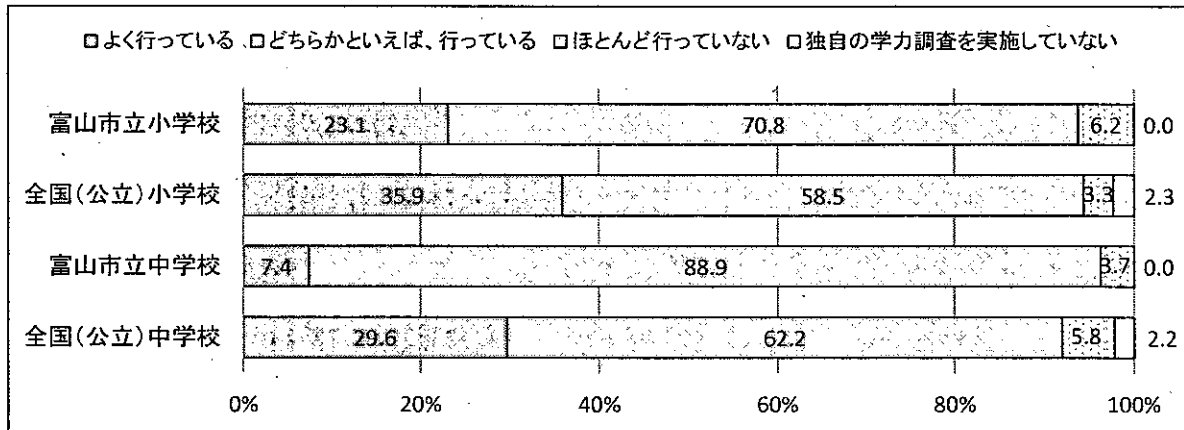
10 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにはほぼ同じである。

【調査結果の活用】

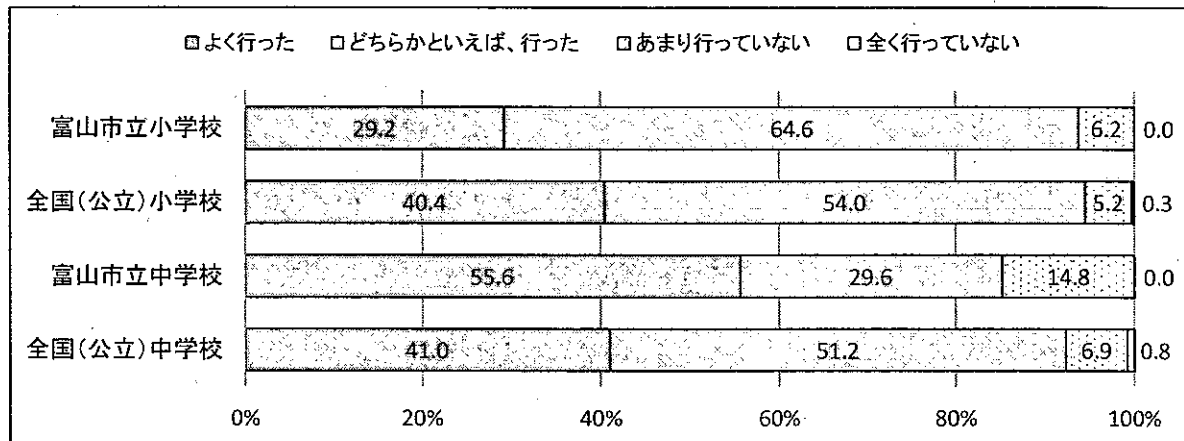
11 全国学力・学習状況調査の結果を市の学力調査等と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている。



※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや高い。

【特別支援教育】

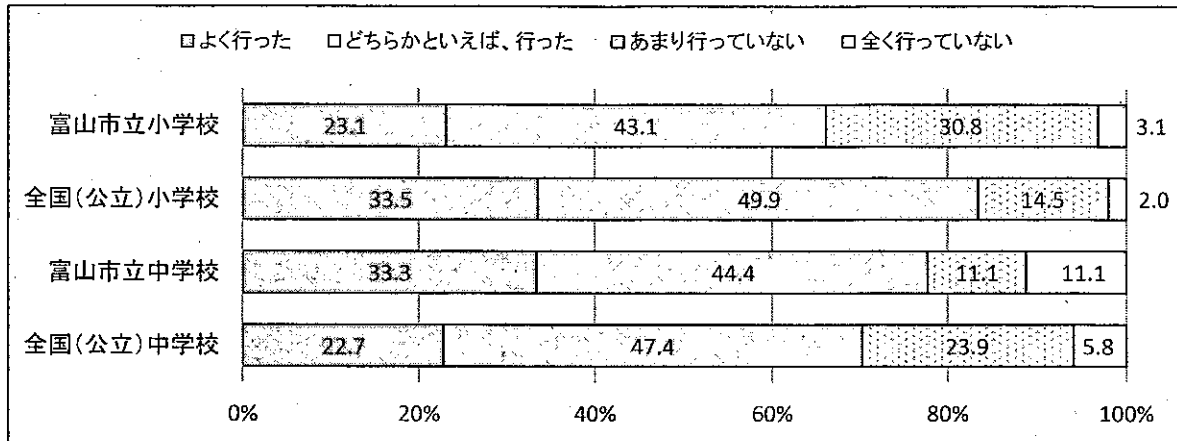
12 特別支援教育について理解し、授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行った。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

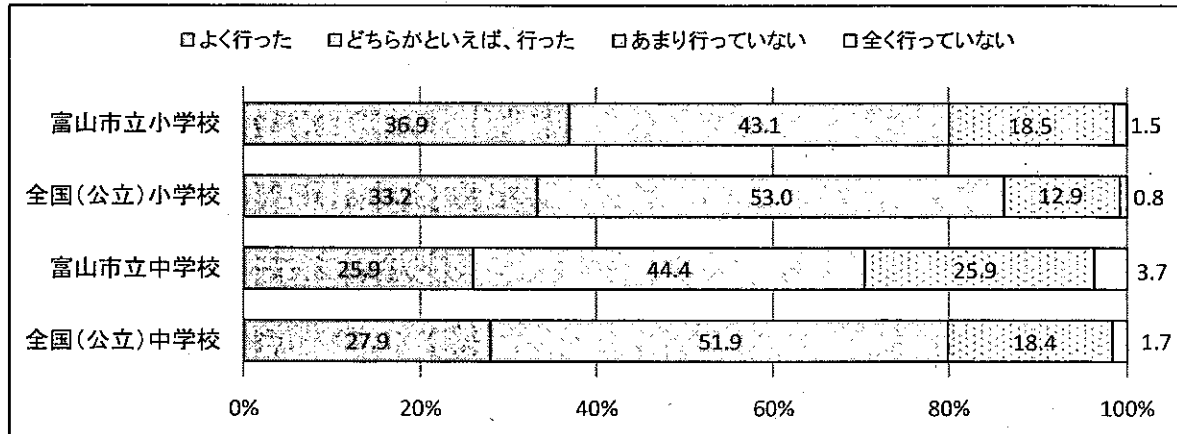
【地域人材・施設の活用】

13 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校は高い。

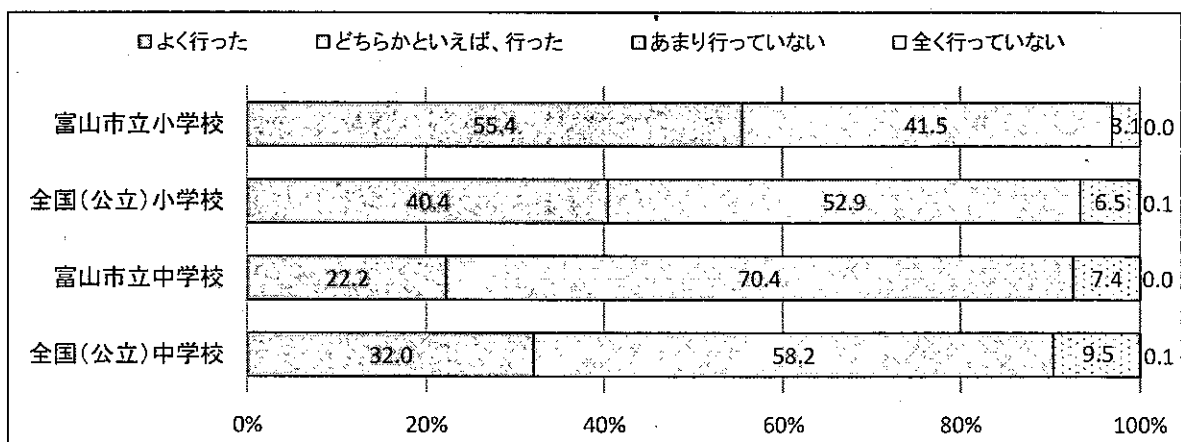
14 授業や課外学習で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定した。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともに低い。

【家庭学習】

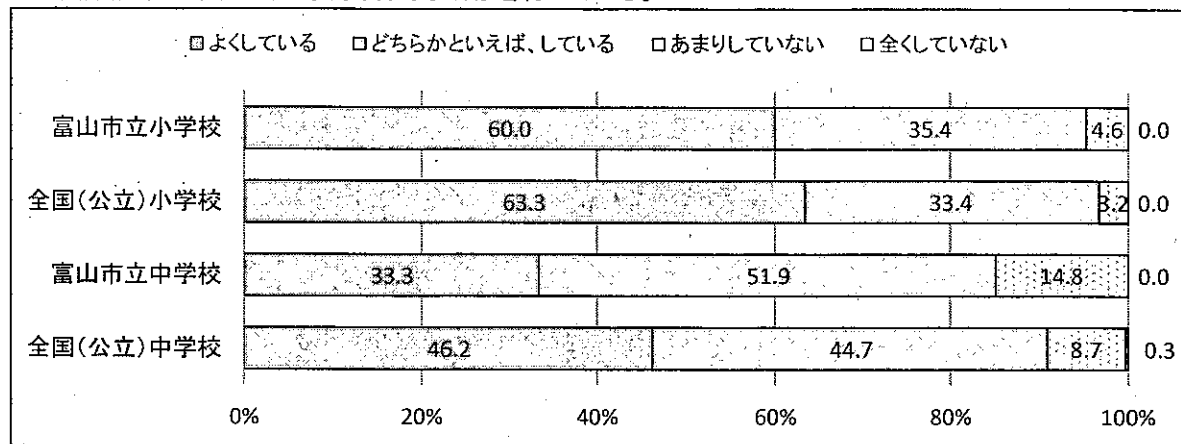
15 家庭での学習方法等を、具体例を挙げながら教えた。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや高く、中学校はほぼ同じである。

【教員研修】

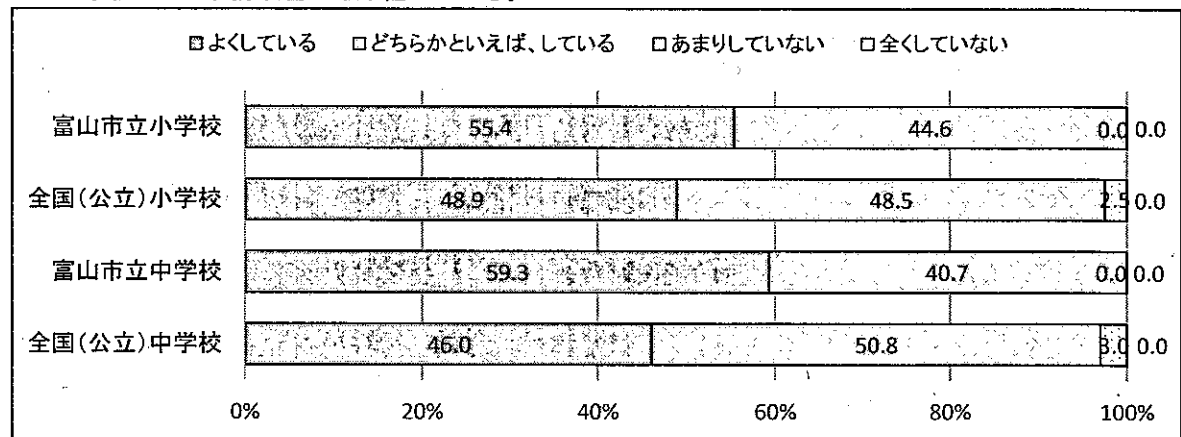
16 模擬授業や事例研究等、実践的な研修を行っている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

【教職員の取組】

17 ★ 学校として業務改善に取り組んでいる。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにやや高い。